

平成24年度 市民等との協働事業一覧表

NO.	部	課	係	事業名	ページ		
1	企画部	秘書広報課	広聴・国際交流担当	青梅マラソン参加外国招待等選手役員受入事業	1		
2		企画調整課	企画調整担当	男女平等情報紙発行事業	3		
3	防災安全部	生活安全課	市民相談係	行政書士による無料相談会	5		
4				多重債務者向け無料法律相談会	7		
5				不動産鑑定士による無料相談会	9		
6				不動産無料相談会	11		
7				法テラスの無料法律相談会	13		
8				総務省東京行政評価事務所による一日合同行政相談所	15		
9				成年後見無料相談会	17		
10				消費生活担当	青梅市市民のくらし展	19	
11				市民部	市民活動推進課	市民活動推進係	おうめ若者カフェ
12		新任職員向け協働研修	23				
13	お〜ちゃんフェスタ2012	25					
14	青梅市民センター	青梅市民センター運営協議会	27				
15	長淵市民センター	長淵市民センター運営協議会	29				
16		長淵市民センターまつり	31				
17	大門市民センター	大門市民センター運営協議会	33				
18		空いろパーク	35				
19		ふるさと地域散歩	37				
20		文化展	39				
21	梅郷市民センター	梅郷市民センター運営協議会	41				
22		梅郷市民センター文化祭	43				
23	沢井市民センター	沢井市民センター運営協議会	45				
24		三田地区総合文化祭	47				
25	小曾木市民センター	小曾木市民センター運営協議会	49				
26		小曾木地区文化祭	51				
27	成木市民センター	成木市民センター運営協議会	53				
28		成木地区文化祭	55				
29		東京ヒルクライム(自転車競技)	57				
30	東青梅市民センター	東青梅市民センター運営協議会	59				
31		東青梅市民センターコミュニティ文化祭	61				
32	新町市民センター	新町市民センター運営協議会	63				
33		新町末広町地区市民文化祭	65				
34	河辺市民センター	河辺市民センター運営協議会	67				
35		河辺市民センター文化祭	69				
36	市民部	市民活動推進課	今井市民センター			今井市民センター運営協議会	71
37						今井市民センター文化展	73
38						市民ウォーキング	75

NO.	部	課	係	事業名	ページ
39	市民部	市民課	住民記録係	市民課等窓口における広告掲載封筒の設置	77
40				市民斎場・火葬場パンフレット	79
41		体育課	スポーツ振興係	第47回青梅マラソン大会	81
42	環境経済部	環境政策課	管理係	いかだ遊び2012in霞川	83
43				ガサガサ水辺の探検隊	85
44				僕も私も釣り名人	87
45				子どもカヤック体験教室	89
46				多摩川まるごと遊び塾	91
47				多摩川上流で野鳥観察と焼きいもを楽しむ集い	93
48				炭焼き体験と水辺の交流会	95
49				がんばれ！あゆっ子2012	97
50				第4回親子さかな釣り体験教室	99
51				「青梅の森」市民ボランティア講座	101
52				おうめ環境フェスタ2012	103
53				おうめ環境ニュースの発行	105
54				自然環境観察講座	107
55				環境巡視活動(ポイ捨て等防止条例啓発パトロール)	109
56				ウォーム・ビズ運動	111
57				エコドライブ運動	113
58				クール・ビズ運動	115
59				みんなで打ち水！	117
60				みどりのカーテンコンテスト	119
61				動物愛護映画上映会	121
62	清掃リサイクル課	ごみ減量推進係	「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声化事業	123	
63	商工観光課	観光係	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	125	
64			梅の公園ガイドボランティア事業	127	
65	農林課	林務係	森林ボランティア育成講座	129	
66	健康福祉部	高齢介護課	包括支援係	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	131
67				認知症サポーター養成研修事業	133
68				介護サービス相談員事務	135
69				高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	137
70		障害者福祉課	認定サービス係	青梅市入門手話講習会・青梅市初級手話講習会	139
71	健康課	健康推進係	第43回市民健康の集い	141	
72	子ども家庭部	子ども家庭支援課	支援係	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	143
73				子育てひろばC型事業(にここ広場)	145
74				青梅市ファミリー・サポート・センター事業	147
75				子どもふれあいフェスタ2012	149
76				青梅市民センター子育て支援事業	151
77				子育てネット事業	153

NO.	部	課	係	事業名	ページ
78				青梅市次世代育成支援地域協議会事業	155
79				青梅市親子ふれあい綱引き大会	157
80	建設部	管理課	庶務係	違法広告物撤去活動	159
81	都市整備部	都市計画課	景観担当	青梅駅周辺景観まちづくり	161
82		公園緑地課	管理係	大塚山いこいの森ボランティア	163
83				緑地管理ボランティア	165
84	教育部	指導室	指導係	学校教育ボランティア	167
85		社会教育課	生涯学習推進係	釜の淵新緑祭2012～生涯学習フェスティバル～	169
86				家庭教育講演会	171
87				親子で文化体験！	173
88		中央図書館管理課	業務係	おはなしボランティア	177
89				中央図書館整架ボランティア	179

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅マラソン参加外国招待等選手役員受入れ事業	担当課	秘書広報課広聴・国際交流担当
------	------------------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年2月15日から16日 場所:第48回青梅マラソン大会会場
2継続事業	
(2) 事業の目的	国際交流の親交のため、青梅マラソン大会に参加する外国招待選手等選手・役員の受入れを、青梅・ポッパルト友好協会および青梅市日中友好協会と連携して行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅マラソン大会により多くの外国人に参加してもらい、国際交流を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	ミッテルラインマラソン大会招待選手団(6名)、北京市選手団(4名)について、市長への表敬訪問を行った。 なお、今大会は大雪により中止のため大会案内は行えなかったが、表敬訪問の引率、通訳等を行った。
(5) 事業経費(決算額)	青梅市からの支出無し

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:①青梅・ポッパルト友好協会、②青梅市日中友好協会 参加人数:①12名 ②7名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	各友好協会が市民レベルでの交流を行っており、結びつきも強いため、外国人選手の招待について青梅市との共催事業としている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:来青までの連絡のやり取り、宿泊先の確保や通訳等については、友好協会で行なっている。 行政側:大会前日、当日の誘導や案内および市内観光の引率を市で行っている。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
大雪の影響で大会が中止となってしまう青梅マラソンを走れなかったが、他の部分では市との協働により、友好都市の方々と交流を深めることができた。			
行政側			
大会が中止となり予定変更等が生じたが、普段から交流を行っている友好協会と協働することにより、スムーズに対応することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
大雪等による大会中止も想定した予定を作成する。			
行政側			
今回の大雪による大会中止を教訓に、次回以降、更に話し合いを行い柔軟な対応が取れるような協働としていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	男女平等情報紙発行事業	担当課	企画政策課 企画政策担当
------	-------------	-----	-----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎年 場所： 青梅市役所会議室他
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めるため、男女平等情報紙を発行する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	毎年2回情報紙「よつばの手紙」を発行する。
(4) 実施内容(実績値等)	情報紙の企画立案、取材調査、編集、発行を行う。
(5) 事業経費(決算額)	969,658円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：食を考える会、NPO法人青梅こども未来、青梅商工会議所、市民一般公募(2人) 参加人数：各団体1人ずつ計5人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	できるだけ市民の声を反映した情報紙を発行し、市民に対して男女平等参画意識の啓発と理解を深めてもらうため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画立案、情報収集、編集 行政側： 計画立案、情報収集、編集、発行

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 青梅市における行政のシステム、特に福祉関係の取り組みを理解することができた。</p>			
<p>行政側 市民と協働で発行することにより、堅苦しい情報紙ではなく、市民が読みやすい情報紙が発行できた。内容について市民が知りたい情報や疑問に感じていることなどを話し合うことができ、意見交換の場としてもよい機会である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 男女平等、男女平等参画等の個々の理解・解釈の中でも、行政側・市民側のそれに対する共通認識の上での編集が望ましいと思う。共通認識がなければ、単なる情報紙になる懸念もあるのではないか。</p>			
<p>行政側 男女平等参画社会の実現をめざし、行政が発行する情報紙としての認識を維持しながら市民が親しみやすい内容の情報紙を発行しなければならない。また、編集作業において役割分担を整理することで、より効率的な運営体制となる。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	行政書士による無料相談会	担当課	市民安全課
------	--------------	-----	-------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年10月10日(木) 午前10時から午後4時 場所:市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	一般市民への行政書士制度の普及および相談支援
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料相談会を開催し、行政書士制度の普及、浸透を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	行政書士による相続、不動産、成年後見などの無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:東京都行政書士会多摩西部支部 参加人数:3人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	東京都行政書士会多摩西部支部からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:相談対応 行政側:会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側			
行政側			
遺言、相続に関する相談や成年後見制度の普及を図れた。 相談件数:11件			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政側			
行政書士制度の普及・浸透を図り、継続的に行政書士を活用した市民への支援を行いたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産鑑定士による不動産に関する相談会	担当課	市民安全課
------	---------------------	-----	-------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年10月3日(木) 午前10時から午後4時 場所:市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	一般消費者の不動産取引に伴う利益を保護するため、不動産に関する知識の普及並びに安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	不動産鑑定士による不動産に関する無料相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人 東京都不動産鑑定士協会からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:相談対応 行政側:会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側			
行政側			
不動産取引に伴う消費者の利益を保護するため、不動産に関する知識や安全な取引の推進が図れた。 相談件数27件			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政側			
安全な不動産取引が推進されるよう継続して開催していく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	不動産無料相談会	担当課	市民安全課
------	----------	-----	-------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年9月9日(月) 午前10時から午後4時 場所:市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	不動産取引に伴う一般消費者の利益保護のため、不動産に関する知識の普及と安全な取引の推進向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	相談時間内で概ね10名程度を目標とする。
(4) 実施内容(実績値等)	弁護士、税理士および全日本不動産協会東京都本部多摩西支部の相談員による不動産全般の相談
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:公益社団法人 全日本不動産協会東京都本部多摩西支部 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益社団法人 全日本不動産協会東京都本部多摩西支部からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:相談対応 行政側:会場確保、広報掲載、パンフレットの配置および配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
行政側			
市民が抱えている不動産に関する諸問題の解決が図れた。 相談件数41件			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政側			
安全な不動産取引が推進されるよう継続して開催していく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	日本司法支援センター東京地方事務所多摩支部(法テラス)の無料法律相談会	担当課	市民安全課
------	-------------------------------------	-----	-------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年9月26日(木)・12月19日(木) 午後5時から午後8時10分 場所:市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	市民生活での様々な法的トラブルを抱えている方を対象に、弁護士による無料相談会を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	開催日ごと、5名。
(4) 実施内容(実績値等)	日本司法センター(法テラス)派遣の弁護士による無料法律相談会
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:日本司法支援センター(法テラス)東京地方事務所多摩支部、東京三弁護士会多摩支部 参加人数:各回1人 計2人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	日本司法支援センター(法テラス)からの要請による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:相談対応 行政側:会場確保、広報掲載、市民への周知、予約受付

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
市民側			
行政側			
市民の法律相談への機会を増やすことにより、市民生活での法的トラブルの解消が図れた。 相談件数8件			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政側			
市民の法律相談への機会を増やすために継続して開催する。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市市民のくらし展	担当課	市民安全課
------	------------	-----	-------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年11月2日(土)・3日(日) 午前10時から午後4時 場所:市役所2階会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	『楽しもう日々のくらし！みんなの未来のために！～見直すのは今でしょ！～』をテーマに、消費生活の安定とコミュニティの大切さについて青梅市市民のくらし展を通して啓発に努める。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	産業観光まつりの来場者に対し、展示、催し物等により啓発を行う。 クイズコーナー2日間 1,310人 東京牛乳ラスク・サブレの配布2日間 900人
(4) 実施内容(実績値等)	展示コーナー(食を考える会、パルシステム東京、コープみらい青梅・奥多摩コープ会等)、試食コーナー(東京牛乳ラスク・サブレ)、クイズコーナー、人権・行政・交通安全コーナー、男女平等参画コーナー、自治会連合会コーナー、おもちゃの病院、使用済小型家電回収コーナー等
(5) 事業経費(決算額)	委託料1,067,917円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 『食を考える会』7人、『パルシステム東京』11人、『コープみらい青梅・奥多摩コープ会』8人、 『青梅総合高等学校』29人、『多摩高等学校』13人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成16年度までは『消費生活展』として実施していたが、婦人会組織がなくなったため、平成17年度から『市民のくらし展』として現在の関係団体で実行委員会を組織し開催している。平成21年度から市内の高校のボランティアとの共同も行っている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:啓発パネル等の制作、展示、説明 行政側:会議の設定、会場総括、準備、整理

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
2日間の来場者は14,200人で、多くの来場者に各団体のテーマおよび消費者、人権、男女平等、市民協働、自治会等の啓発が効率的に図れた。			
行政側			
正規職員1名および再任用職員1名の少人数体制で、多くの来場者に各団体のテーマおよび消費者、人権、男女平等、市民協働、自治会等の啓発が効率的に図れた。特にクイズの景品については、市内産野菜を配布したり、青梅産の牛乳が含まれている『東京牛乳ラスク・サブレ』の配布により、地産地消の推進が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
協働を依頼している各種団体の構成員の減少や団体の活動が忙しく、さらに本事業への協力体制が負担になるとの意見もあり、今後規模の縮小などの検討が必要である。			
行政側			
現在3団体に協働のお願いをしているが、各種団体の構成員も自分の団体の活動が忙しく、さらに本事業への協力について難しくなっている。本事業の縮小を含めた見直しの検討が必要である。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新任職員向け協働研修	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年5月7日(火) 場所:市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	新任職員に対し、協働について理解してもらい、ボランティアセンターを知ってもらう
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	協働について基本的事項を理解してもらい、今後の事業実施に役立てる。
(4) 実施内容(実績値等)	「協働のまちづくりを促進するために」と題した講義、 グループワーク「協働による青梅市の婚活支援事業を提案する」
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数:1人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働の研修が新任研修に組み込まれることになり、ボラセンとの協働を投げかけた
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	ボラセン:協働のグループワーク 行政側:協働の講義、消耗品の負担

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		ボラセン	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター 事前協議委で当日の役割分担を明確にしていたため、連携のとれた研修を実施することができた。			
行政側 準備期間が短期間になってしまったが、グループワークのテーマについてはお互いで話し合い決めることができた。当日は、講義およびグループワークについては順調に進行することができた。短時間の中でのグループワークではあったが、活発に意見がでて様々な協働事業が提案されていたので、新人職員にたいして協働についての知識が得られたと思われる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
青梅ボランティア・市民活動センター グループワークのテーマや進行について、十分な打合せを行い、臨んでいきたい。			
行政側 グループワークの時間が短かったため、講義とグループワークの時間配分を考え、どの部分を重視していくのか考えていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	お〜ちゃんフェスタ2013	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年9月16日(日) 場所:市役所西側駐車場および2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業、市民が一体感を共有できる機会をつくる。 地域や世代を超えた交流や発表の場を創り、より一層のコミュニティの活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	
(4) 実施内容(実績値等)	・ボランティア・市民活動団体、福祉団体、施設、企業等の活動紹介と展示、模擬店出展、バザー
(5) 事業経費(決算額)	1,217,965円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市社会福祉協議会 参加人数:800名(うち出店者・関係者450名含)
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	以前は福祉団体を中心に「ふくし祭」として実施していたが、ボランティア・市民活動団体を含めた発表の場として実施していくこととなった
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業実施、広報活動(広報おうめ以外) 行政側:事業実施のサポート、広報活動(広報おうめ)

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		ボラセン	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター 荒天のため小規模なフェスタとなったが、諸団体・市民・企業などが時間と空間を共有する事ができ、相互の理解を深めることができた。			
行政側 荒天のため、出演者、参加者ともに少なめであったが、ボランティア団体の活動状況を把握でき、コミュニケーションを図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
青梅ボランティア・市民活動センター 協働事業を円滑に行うために、あらゆる事柄を想定した事前の打合せを十分にとって臨んでいきたい。			
行政側 荒天候の場合の開催の有無について、事前打ち合わせをしていなかったため、開催の有無について混乱してしまった。事前打ち合わせをしっかりとしていきたい。また、事前協議と当日の役割分担を明確にしていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	市民活動団体支援講座 「～信頼される組織になるために～」	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	---------------------------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年2月1日(土) 場所:市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	協働事業の担い手である市民活動団体等の研修を行い、組織強化をすることで、新規性、先進性の高い協働事業を実現可能とするため
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	組織運営について基本的事項を理解してもらい、今後の団体運営および協働事業の実施に役立てる。
(4) 実施内容(実績値等)	「団体の組織基盤強化と題した講義 参加者 31人
(5) 事業経費(決算額)	報償費 26,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数:1人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働事業の担い手である各市民活動団体向けの研修を組みこむことになり、ボラセンとの協働を投げかけた
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	ボラセン:講座の企画、受付、運営 行政側:講座の企画、受付、広報、運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		ボラセン	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター 市民活動団体に必要な内容の研修を行うことができ、組織運営の強化の支援ができた。			
行政側 市民活動団体の拠点であるボランティア市民活動センターと行うことで、周知についても直接団体に声かけをしていただくことができ、順調に開催することができた。研修を実施することで、今後の団体運営の支援策となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
青梅ボランティア・市民活動センター 市民活動団体等の課題を収集したうえで、十分な話し合いをもち臨んでいきたい。			
行政側 多くの団体に参加してもらおうことができるよう、周知方法を工夫していきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	市民活動団体支援講座 「基礎から学ぶ会計」	担当課	市民活動推進課 市民活動推進係
------	--------------------------	-----	--------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年3月18日(火) 場所:市役所2階会議室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	協働事業の担い手である市民活動団体等の研修を行い、組織強化をすることで、新規性、先進性の高い協働事業を実現可能とするため
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	組織運営について基本的事項を理解してもらい、今後の団体運営および協働事業の実施に役立てる。
(4) 実施内容(実績値等)	「基礎から学ぶ会計」と題した講義 参加者 22人
(5) 事業経費(決算額)	報償費 20,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ボランティア・市民活動センター 参加人数:1人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	協働事業の担い手である各市民活動団体向けの研修を組みこむことになり、ボラセンとの協働を投げかけた
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	ボラセン:企画、受付、運営 行政側:企画、受付、広報、運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		ボラセン	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
青梅ボランティア・市民活動センター 市民活動団体に必要な内容の研修を行うことができ、組織運営の強化の支援ができた。			
行政側 市民活動団体の拠点であるボランティア市民活動センターと行うことで、市民活動団体が必要としている内容を行うことができた。周知についても直接団体に声かけをしていただくことができ、順調に開催することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
青梅ボランティア・市民活動センター 内容の幅が広く、一度では学びきれない部分もあったため、内容を含め開催数など十分な協議をし臨んでいきたい。			
行政側 団体が必要な内容であったが、内容が広すぎ時間が短かったため、時間と内容を考えていき。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成25年8月7日 第2回 平成26年2月27日 場所： 青梅市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター施設利用状況、生涯学習事業実施状況、図書館利用状況、市民センターの運営について協議
(5) 事業経費(決算額)	青梅市民センター運営協議会謝礼金 85,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第1支会、スポーツ推進委員、青少年委員、1中PTA、1小PTA、青梅地区高齢者クラブ連合会、センター利用団体、公募委員 参加人数：
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：センター運営全般について協議する 行政側：提言を市民センター運営に反映させるよう努める

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センター施設の利用状況や業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
<p>行政側 市民センターの運営等について率直な意見が得られやすい機会になっている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターについて考えていく機会にした い。</p>			
<p>行政側 今後も運営協議会の意見を尊重しながら対応したい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 青梅市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成26年(2014) 2月22日(土)・23日(日) 場所：青梅市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターを利用する自主グループおよび地域の方で趣味等の作品展示、演技披露等により広く地域住民に紹介するとともに、市民センターを地域市民の交流の場、ふれあいの場として活用し、親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市民センター利用自主グループの発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図るとともに機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市民センター利用自主グループの作品展示、演技披露、地域団体等による交流の場の設定をし、延べ570人の入場者をえた。
(5) 事業経費(決算額)	10,347円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市民センター文化祭実行委員会 参加人数：17団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	自主グループの発表の場と交流の場、親睦の輪を広げるため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：団体代表者および担当者が実行委員会に出席。前日、当日は会場設営および撤収等を実施。 行政側：実行委員会業務、当日に向けての準備事務、会場準備等を実施。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 自主グループの活動発表の場、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として成果があったと思われる。			
行政側 行政と自主グループとの交流が図られ、活動内容も把握でき、今後の市民センター運営の参考となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 発表の場所等のよりよい会場づくり、さらなる地域への周知方法。			
行政側 新たな参加団体および地域への周知方法。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	----------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成25年8月1日、 第2回 平成26年2月27日 場所:長淵市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	長淵市民センターの効果的な活用を検討する
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営について、地域の団体や市民が主体となって協議する(年2回)
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	長淵市民センター運営協議会委員謝礼金 80,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第二支会、二小、二中PTA、友田小PTA、一小千ヶ瀬子供会、元第二婦人会、スポーツ推進委員、青少年委員、公募委員 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:センター運営全般について協議する 行政側:センター運営全般について協議する

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの現状の業務内容について知ることができるとともに、意見交換を通して地域との相互理解に役立っていると思われる。</p>			
<p>行政側 市民センターについて率直な意見が得られやすい機会になっている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 市民センターからの情報や委員同士の意見交換を通して、市民センターについて考えていく機会にした い。</p>			
<p>行政側 運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	長淵市民センターまつり	担当課	市民活動推進課 長淵市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年11月9日、11月10日 場所:長淵市民センター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	長淵市民センター利用団体の作品展示等により活動状況を広く市民に紹介するとともに、地域団体等による地域住民の交流の場を設け、地域の連携、コミュニティの醸成を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	長淵市民センター利用団体の発表の場等を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	長淵市民センター利用団体の作品展示、演技披露、地域団体等による交流の場の設定
(5) 事業経費(決算額)	支出額:17,454円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:長淵市民センターまつり実行委員会 参加人数:20団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体の発表の場創設
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:実行委員会での打合せ。センターまつりの会場の設営および片付け。 行政側:実行委員会関係業務、センターまつり日程の周知、展示等機材の提供。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
市民側 利用団体の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。			
行政側 市民センターが身近に感じられる大きな要素と考えられる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 発表の場所等のより良い会場づくり。			
行政側 参加団体、入場者数の増加方法の検討。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	大門市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回(平成25年7月31日),第2回(平成26年2月26日) 場所:大門市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	大門市民センターの効果的活用および適正かつ円滑な運営について協議すること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域の団体や市民が主体となった協議機関として、市民センターに置く機能や運営について協議し、市民センターの効果的な活用と運営を目指す。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方について、市民センター利用状況、住民票等の交付状況、文化祭等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	報賞費 80千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第3支会1名、保育園園長1名、子供会育成会1名、青梅市スポーツ推進委員会1名、霞老壮大学1名、防災対策委員会1名、利用団体2名、公募委員2名 参加人数:合計10名(男6、女4)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する。 行政側:提言をセンター運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市民センターの効果的な活用、サービス向上について意見交換ができ、地域住民の要望等を得やすくなったが、予算の制約から実現に結びつかない事項があった。</p>			
<p>行政側 センターが地域に密着し市民の声が行政に反映され、また行政から地域への情報等が円滑に行え、地域の拠点としてのセンターに有効である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 より自由に意見をいただく。</p>			
<p>行政側 センターを効率よく運営できるよう協議会の意見を尊重し実施していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	文化展	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	-----	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年11月16日・17日 場所:大門市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体および地域住民の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場として、親睦の輪を広げる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	サークル団体活動および地域の住民の発表の場を設け、地域の住民相互の親睦を図るとともに市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	団体メンバーおよび地域の人々の作品の展示や発表を行い、大門地域のふるさとまつりと同時開催の効果もあり 2,497人の観覧を得た。
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 3千円 パネル準備費 181千円(6センター協同)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:大門市民センター文化展実行委員会 参加人数:369(参加団体加入者および実行委員長)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	自主グループの活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:団体代表者が実行委員として会の運営に係る。当日は、参加団体メンバーが行政側と共同で会場設営・撤去等を行う。 行政側:実行委員会を開催して協議を進める。展示等に必要なものを準備する。展示パネルの設営・撤去。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果をみてもらうことができた。			
行政側 施設利用団体の活動内容を把握し、利用者との交流を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 より多くのセンター利用団体による参加、出品、発表。 展示スペースの拡充。			
行政側 展示会場、展示道具の老朽化。 舞台を必要とする団体は発表ができない。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	空いろパーク	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	--------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:5月27日～2月24日(8・9月を除く月1回開催) 計7回 場所:大門市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターは児童館的要素もある複合施設であり、子育て支援事業の一つとして、子育て中の保護者や乳幼児に遊び場を提供し他の親子との交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多くの子育て中の親子に参加していただき交流を通じて悩み等の相談や親睦を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	まめまき、もちつき、ふれあい遊び、読み聞かせ、歌遊び、幼児体操、大人のストレッチ、仲間づくりなど毎回テーマを変えながら母と子で遊ぶ。
(5) 事業経費(決算額)	なし 広報掲載

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:虹いろの会 参加人数:延参加人数 317人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	自主グループとしての活動の活性化
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:当日の準備・指導 連絡調整 行政側:事前協議 広報での周知 会場の確保 当日の準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	参加者募集の広報活動が、より広く実施できた。		
行政側	就学前の親子の子育て支援ができた。		
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側	第三中学校の体育館使用のため、事業継続が困難となり、休止となってしまった。		
行政側	市の子育て支援事業の充実が必要性とされている。		

協働事業評価シート(表)

事業名称	ふるさと地域散歩	担当課	市民活動推進課 大門市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年2月22日 場所:大門市民センター管内
2継続事業	
(2) 事業の目的	近くに住む人同士親睦をはかりながら、身近な地域を知り、新たな発見、人とのつながりをつくることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多くの市民に参加してもらうことにより、地域住民の親睦を深める。
(4) 実施内容(実績値等)	大門市民センター管内約4kmを散歩しながら、地域の歴史の話を聞く
(5) 事業経費(決算額)	市予算(市民活動事業経費・報償費・講師報償金)から 7,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:33人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域を活動拠点としていたので、センター事業を実施したい旨相談したところ、目的が合ったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:講師との連絡調整、事前協議、当日の引率 行政側:事前協議、広報等での周知、当日の資料準備等の事務

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域で活動している団体なので、地域住民との親睦をはかるとともに、団体の活動内容を知ってもらうことができた。</p>			
<p>行政側 身近な地域の歴史に触れるとともに、地域の人達の交流をはかることができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 今後もセンターとの協働で実施していきたい。</p>			
<p>行政側 今後も内容を変え、霞川くらしの楽校との協働で実施していきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	----------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成25年7月19日(金)、第2回 平成26年3月25日(火) 場所： 梅郷市民センター会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	梅郷市民センターの効果的な活用等について検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般について、意見を求めるため、協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの在り方について、市民センター利用および事業実施状況、出張所関係業務状況、図書館の状況等、行政との連絡や地域への情報発信等について。
(5) 事業経費(決算額)	梅郷市民センター運営協議会委員謝礼金 70,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第四支会 1名、青少年対策梅郷地区委員会 1名、青少年委員 1名、スポーツ推進委員 1名、 参加人数： 10人(男性6名、女性4名)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： センター運営全般について検討する。 行政側： 意見を市民センター運営に反映させるよう努める。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
地域住民や利用者からの意見等を行政に伝えることができた。			
行政側			
市民センターについて率直な意見が得られやすい機会になっている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政からの情報提供や委員同士の意見交換をとおして、市民センターをよりよくするための意見交換の場として活用したい。			
行政側			
運営協議会の意見等を尊重しながら対応したい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅郷市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 梅郷市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年11月10日(日) 場所：梅郷市民センター体育館、会議室、駐車場
2継続事業	
(2) 事業の目的	地域の伝統や特性を生かし、生涯にわたる地域住民の多様な学習機会の成果を展示することで、地域の交流を促進し地域社会における主体的活動の活性化を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	梅郷市民センター利用団体の発表の場等を設けるとともに、地域住民の親睦を図る機会とする。
(4) 実施内容(実績値等)	梅郷市民センター利用団体の作品展示、地域団体等による交流の場の設定。
(5) 事業経費(決算額)	支出額：69,001円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：梅郷地区総合文化祭実行委員会 参加人数：団体 16、個人 3
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用団体の発表の場を提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：実行委員会での打合せ。文化祭会場の設営および片付け。 行政側：実行委員会関係業務、文化祭日程の周知、展示等機材の準備。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
利用団体や地域住民の成果発表、団体相互の親睦、地域住民の交流の場として効果がある。			
行政側			
利用者の表現したい場作りにお互い意見交換ができ、市民側により満足できる場を提供できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
発表の場所等のより良い会場づくり。			
行政側			
参加団体、入場者数の増加方法の検討。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	沢井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成25年10月2日 第2回 平成26年3月4日 場所： 沢井市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	沢井市民センターの効果的な活用を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市としての事務、地域団体の事務に対し、多くの意見を寄せてもらい、意見が活かされるよう努める。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、施設整備状況、主催行事、関係団体の行事について報告
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 75千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第5支会支会長(1)、自治会長(1)、第六小学校校長(1)、青少年対策地区委員会会長(1)、青少年委員(1)、スポーツ推進委員(1)、沢井市民センター利用団体代表者(2)、公募委員(2)。委員定数10人。 参加人数：10月2日の出席者は9人。3月4日の出席者は6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：各種の立場から、市民センターのよりよい運営に向けた助言を行う。 行政側：助言を活かし、市としての事務、地域団体の事務に可能な限り反映させる。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対し、要望等を提供しやすくなった。			
行政側 率直な意見を直接聞けるため、センター運営に反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからもより一層活用する。			
行政側 現状、情報提供を積極的に行い、意見集約の一つとし、市民センターをさらに良くすることを課題とする。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	三田地区総合文化祭	担当課	市民活動推進課 沢井市民センター
------	-----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年11月17日 場所：沢井市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	地域住民の文化意識の向上を図る。出品・出演者同士の協力作業などによる住民同士の触れ合い、趣味発見の機会提供。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者数600人の確保。演技の披露と住民間の交流に成果を上げる。
(4) 実施内容(実績値等)	文化系団体作品展示、演技発表、農産物共進会、農産物即売、共催団体作品展示。
(5) 事業経費(決算額)	市民センター運営経費 支出済額 14千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	「清涼会」(老人会)約10人。「三田同友会」約10人。「西東京農協」約10人。沢井市民センター利用団体約60人参加。
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター利用自主グループの作品・実技、また農産物をより大勢の人に鑑賞・観賞していただくため、農産物即売会による集客力との相乗効果を期待しつつ、交流を広げることを目的に事業を協働することとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：主催者会議、事前説明会、会場準備、当日の運営協力、展示または出演、片づけ。 行政側：主催者会議、事前説明会、会場・必要物品の確保、開催通知、会場設営・進行管理・片付け

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 発表の場が広がることで活動の励みになり、連帯意識も高まる。市民センター利用者との交流に発展するきっかけとなる。</p>			
<p>行政側 事業を共催することで集客効果がある。事業を通して関わることで、日ごろから市民との距離感も縮まる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 若い世代の参加および来場者が少ない。</p>			
<p>行政側 市民センター利用団体も高齢者が多く、若い世代を集客する工夫が必要。子育て中の親子の市民センター利用が比較的多いので、興味を示す催しが必要。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回 平成25年8月12日、第2回 平成26年2月26日 場所： 小曾木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	センター運営を適正、円滑にすすめる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成25年度市民センター予算執行状況・センターの在り方について・平成25年度センター生涯学習事業の実施状況・センター利用状況・図書館利用状況・節電について・平成26年度市民センター予算の概要・平成26年度小曾木市民センター生涯学習事業の実施予定について
(5) 事業経費(決算額)	(款)02総務費 (項)1総務管理費 (目)10市民センター費 (節)08報償費 (事業)02市民センター運営経費 95千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 第6支会、社会教育団体のうちスポーツ団体、文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数： 10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する 行政側： 地域発展に向けて、センターの在り方を検討する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側	センターの運営状態が良く分かった		
行政側	センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。		
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側	センターの利用がもう少し多くなると良いと思います		
行政側	委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。 市民側から施設の老朽化や備品の老朽化等を指摘され、意見を頂くことが多く、市民センターの予算および市の財政状況の話となる。		

協働事業評価シート(表)

事業名称	小曾木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 小曾木市民センター
------	----------	-----	----------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年11月9日、10日 場所：小曾木市民センター
1単年度事業、2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動成果として作品を展示すること等により市民に紹介、地区の連携、コミュニティを図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け、団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売
(5) 事業経費(決算額)	市民センター利用団体で組織する文化祭実行委員会の参加負担金および寄付金で運営。14千円。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：小曾木地区文化祭実行委員会 参加人数：21団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	センターで活動中のサークルの発表の場や、地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け 行政側：文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備・片付け等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 利用団体や地域住民(福祉施設入居者も含む)の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。			
行政側 行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。 より親しみやすい市民センターへ			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 センター利用団体文化団体が高齢等の理由から参加者が減少傾向にある。			
行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。 演奏は6中吹奏楽部で野外(センター駐車場)で演奏のため、天候により会場が変わる問題がある。 これらからも、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	成木市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年8月6日、平成26年3月7日 場所：成木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	センター運営を適正、円滑にすすめる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を検討する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成25年度市民センター予算執行状況・センターの在り方について・平成25年度センター生涯学習事業の実施状況・センター利用状況・図書館利用状況について・平成26年度市民センター予算の概要・平成26年度成木市民センター生涯学習事業の実施予定について
(5) 事業経費(決算額)	95千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会、第七支会体育振興会、第7支会防災対策委員会、地区内教育環境研究会、社会教育団体のうちスポーツ団体、文化団体、青少年委員、公募委員 参加人数：10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：地域特性や地域の住民ニーズに対応した市民センター運営と、地域市民活動団体等の拠点としての活用に向けて、市民センターの運営全般について提言する 行政側：地域発展に向けて、センターの在り方を検討する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 センターの運営状態が良く分かった			
行政側 センターのあるべき姿について、率直な意見をいただき市民の要望等を得やすくなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 センターの利用がもう少し多くなると良いと思います			
行政側 委員の意見を尊重し市民センターの運営をしていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	成木地区文化祭	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年11月9日、10日 場所：成木市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体や地域住民、小中学生の活動状況を作品を展示すること等により市民に紹介し、地区の連携、コミュニティを図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動支援と地域の結びつき
(4) 実施内容(実績値等)	センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介、小学校総合学習の成果発表、農産物の販売
(5) 事業経費(決算額)	53千円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会文化祭実行委員会 参加人数：26団体
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	センターで活動中のサークルの発表の場や、地域住民の作品の展示発表を設ける。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：実行委員会での検討、文化祭当日の会場の準備、作品等の作成および展示片付け 行政側：文化祭実行委員会開催準備から文化祭の周知、会場事前準備等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 利用団体や地域住民の成果の発表、相互理解、地域の親睦、つながりが深まる。			
行政側 行政と市民が一体となり推し進めることで、市民センターが、より身近な存在となる。 より親しみやすい市民センターへ			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 文化祭の規模拡大への方法として、周知方法や子供の参加方法を考慮すべき			
行政側 土地柄を生かした農業者振興会による農作物の展示即売が人気が高いのでぜひ続けたい。 地域住民の作品集めには、早い時点での働きかけが必要。これらから、より多くの方に参加していただけるよう、今後も努めていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東京ヒルクライム (自転車競技)	担当課	市民活動推進課 成木市民センター
------	---------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年9月22日 場所：成木市民センター～常盤林道
2継続事業	
(2) 事業の目的	恵まれた自然を活用し環境保全と健康づくりを目指す。また、地域間交流と地域の一体感を深める
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	目標参加人数500名 自転車競技に参加選手の安全確保と地域の親睦
(4) 実施内容(実績値等)	ヒルクライム(自転車で山道や坂を上る)競技 成木市民センターをスタートし、常盤林道終点をゴール地点として目指す
(5) 事業経費(決算額)	市予算なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：第7支会・(社)里仁会・KFCトライアスロンクラブ 参加人数：333名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地域の一体化を図るため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：開催準備、交通整理、受付、撤収 行政側：準備品用意、交通整理

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 相互理解、地域の親睦、つながりが深まる			
行政側 行政と市民が一体となり進めることで、地域間交流と地域の一体感が深まった			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 競技の規模拡大への方法として周知方法や、参加者の増加に向けて駐車場の確保などが必要			
行政側 駐車場や交通手段の確保、競技の安全確保			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 東青梅C
------	----------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:第1回 平成25年8月1日 第2回 平成26年2月6日 場所:東青梅市民センター第一会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法を検討する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用と運営全般を協議するため、協議会を年2回開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センターの概要・利用状況、住民票等交付状況、図書館利用状況、予算・事業等について
(5) 事業経費(決算額)	東青梅市民センター運営協議会委員謝礼金 100,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:第八支会1名、青梅市スポーツ推進委員1名、青少年対策地区委員会第八支会1名、東青梅老壮大学1名、センター利用団体からスポーツ団体1名・文化団体1名、青梅市青少年委員1名、NPO法人子ども未来1名、公募委員2名 参加人数:10名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:センター運営のあり方を検討する 行政側:提言を市民センター運営に反映させるよう努める。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 行政に対し、要望等を提供しやすくなった。			
行政側 率直な意見を直接聞けるため、センター運営に直接反映できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 市民センターをよりよくするための意見交換の場として、これからもより一層活用する			
行政側 現状、情報提供を積極的に行い、意見集約のひとつとし、市民センターをさらによくすることを課題としたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	東青梅市民センターコミュニティ文化祭	担当課	市民活動推進課 東青梅C
------	--------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年10月12日・13日 場所：東青梅市民センター体育館および和室
2継続事業	
(2) 事業の目的	センター利用者などの文化活動の成果を発表する機会を設け、広く地域市民が見学、参加等を通して、地域の文化活動の発展や交流をより一層図っていくこと。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民の文化活動の成果を発表し、市民相互の親睦を図る場とする
(4) 実施内容(実績値等)	東青梅市民センター利用団体および個人等の作品等の展示、演奏、実演。 作品数338点および20曲・観覧者602人
(5) 事業経費(決算額)	支出額:17,229

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会第八支会1名、利用団体代表者(文科系)18名 参加人数:19名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	各種団体の発表の場の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:実行委員会を設置し、会場配置図等を作成。各団体で会場設営する。 行政側:展示用具等の提供

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2
(11) 協働による効果			
市民側 自分たちの表現しているコトモノをより効率的な場を作れる。			
行政側 利用者の表現したい場作りにお互い意見交換ができ、市民側により満足できる場を提供できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 提供される場のよりよい環境づくり。			
行政側 展示会場、展示道具の老朽化、参加サークルの高齢化に伴う参加人数・出品数の減少。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新町市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 第1回 平成25年8月22日 第2回 平成26年3月6日 場所: 新町市民センター第2会議室
2 継続事業	
(2) 事業の目的	新町市民センターの効果的な活用を検討するために設置
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの運営に関して協議する。
(5) 事業経費(決算額)	新町市民センター運営協議会委員謝礼金100,000円(5,000円×10人×2回)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1. 政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 新町市民センター運営協議会(第九支会、青少年対策地区委員会1名、小学校PTA1名、中学校PT1名、施設利用団体1名、公募委員2名) 参加人数: 10名
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要綱
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 市民センターの運営に関して協議する。 行政側: 協議会の提案等により効果的な活用を図る。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
行政に対して、要望や意見の発言により、センターを身近なものにできる。			
行政側			
市民側の意見を直接聞き、センター運営に反映することが可能となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市民センターのより良い運営に向けての意見交換の場として活用する。			
行政側			
運営状況等の情報提供を積極的に行い、住民の意見収集の場として活用し、市民センターの良好な運営を図る。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	新町末広町地区市民文化祭	担当課	市民活動推進課 新町市民センター
------	--------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年11月9日(土)、10日(日) 場所:新町市民センター体育館および本館(会議室、和室等)
2継続事業	
(2) 事業の目的	新町市民センターを利用している文化団体の活動を広く地域住民に紹介するとともに、新町市民センターを地域の交流の場として活用することを目的に実施する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域住民が、文化活動の成果を発表し、発表の場としての新町市民センターに来館することによって、地域住民の交流による地域の活性化を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	作品展示・舞踊、演奏、模擬店および地元農産物の販売等
(5) 事業経費(決算額)	支出した額69,340円(消耗品4,021円、パネル運搬費42,000円、文化祭用白布等洗濯料23,319円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:新町末広地区市民文化祭実行委員会(新町市民センター運営協議会委員10人、文化祭参加団体の代表者21人、青梅市自治会連合会第九支会役員および前年度第九支会役員17名) 参加人数: 10名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	新町市民センターを活動拠点とする文化団体等の発表の場として実施
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:実行委員会を組織し、主体的に運営する。 行政側:展示に必要な用具の提供と実行委員会として事務局の機能を果たす。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
各団体や地域住民が活動状況を発表する場として有効である。			
行政側			
市民の自主的な運営により、事業が柔軟かつ円滑に実施された。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
高齢化等により、参加者が年々減少している。地域の活性化のためにも、参加者の規模の拡大が必要			
行政側			
参加者、来場者の減少に対して、参加者による周知努力により増加を図る。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年6月25日(火)、平成26年2月26日(水) 場所:河辺市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センターの効果的な活用方法の検討
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民センターの利用率の向上と効果的な活用
(4) 実施内容(実績値等)	市民センターの利用状況、住民票等証明発行事務の状況および分館図書館の利用状況等に対する報告と意見交換
(5) 事業経費(決算額)	95,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:地元自治会2人、高齢者クラブ代表1人、中学校PTA1人、地区青少年対策委員会1人、霞台第1住宅代表1人、民生・児童委員1人、スポーツ推進委員1人、公募委員2人 参加人数:10人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市市民センター運営協議会設置要項
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:市民センターの効果的な活用方法の検討 行政側:協議会意見等にもとづき市民センターの運営に活かす

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側: 市民センターと地域の交流・意見交換の場として有益あったと考える。			
行政側: 市民センターと地域の交流・意見交換の場として有益であった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側: 地域の様々な要望がなされても予算を伴うものはなかなか反映されない。			
行政側: 要綱設置の協議会のため、単なる意見交換の場になってしまっていることが多い。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	河辺市民センター文化祭	担当課	市民活動推進課 河辺市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年10月26日(土)、27日(日) ※台風接近にともなう影響により本年度は中止となった。 場所:河辺市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民センター利用団体の活動状況を広く市民に紹介し、活動への参加を促すとともに、地域住民の作品を展示することにより、一層の河辺地区のコミュニティー醸成を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動支援、市民センター利用率等の拡大および地域コミュニティーの醸成
(4) 実施内容(実績値等)	市民センター利用団体および地域住民の作品展示、演奏、演技等の紹介および第10支会自治会、食育クラブ等の出店
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:河辺市民センター文化祭実行委員会 参加人数:31団体
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市民センターで活動中のサークルの発表の場を設けることから、地域住民の作品の展示へと拡大していった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:実行委員会での意見をもとに、会場準備、作品展示および片づけまでを市民センター側と自主的に協働で行う。 行政側:文化祭実行委員会の設置、参加者募集、会場設置・設営事前準備のほかはすべて実行委員会・参加者と協働で行う。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1
(11) 協働による効果			
市民側 市民センターを活動拠点としてきて発表の場が出来、活動が活発になる。			
行政側 利用者とのコミュニケーションが図れ、市民センター運営に効果があった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側: 双方良好な関係を保つことができたが、まだまだ参加者の自主性の向上を図る必要がある。			
行政側: 永く継続してきた事業であるため双方の良好な関係が気付かれている。本年度も2回の実行委員会開催を経て準備は順調であったが、会場準備の日が台風接近の影響を受けて荒天であったため残念ながら中止となった。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター運営協議会	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	---------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 第1回(平成25年7月5日)、 第2回(平成26年2月25日) 場所： 今井市民センター会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	今井市民センターの運営を適正かつ効果的に行うことを協議する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	今井市民センターの運営を適正・円滑に行いかつ効果的な活用を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	今井市民センターの利用状況、平成25年度予算の概要、今井市民センター文化展等について
(5) 事業経費(決算額)	運営協議会委員謝礼金90,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 自治会連合会第11支会1人、保育園園長1人、小学校PTA1人、青少年委員1人、青少年対策第11 参加人数: 述べ18人(第1回8人、第2回10人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	今井市民センター運営協議会設置要綱による。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 市民センター運営のあり方を協議・検討する。 行政側： 必要な情報を提供し、協議・検討内容を市民センターの運営に活用する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
地域住民や施設利用者からの意見や要望を行政に伝えることができた。			
行政側			
市民センターのあり方等について意見や要望を聞くことにより、市民センターの運営に反映させることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政のさらなる情報提供による利用者率直な意見や要望の聞き取り。			
行政側			
利用者からの意見や要望に対する行政の適切かつ的確な対応。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	今井市民センター文化展	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	-------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年11月2日、3日 場所：今井市民センター体育館、和室
2継続事業	
(2) 事業の目的	今井市民センター利用団体の活動成果を地域市民に紹介するとともに、市民センターを交流の場、ふれあいの場とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	利用団体の活動発表の場を設け団体相互の親睦を図るとともに、市民センター利用団体の資質の向上を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	利用団体メンバーの作品の展示や発表を行い641人の観覧を得た。
(5) 事業経費(決算額)	文化展消耗品費12,442円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：今井市民センター文化展実行委員会 参加人数：述べ106人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	利用団体の活動の活性化を図る。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：実行委員会により会場の配置図等を作成し、各団体で会場を設営する。 行政側：展示用具等を提供する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
活動発表の機会を協働で行ったことにより、多くの市民に活動成果を見てもらうことができた。			
行政側			
施設利用団体の活動内容の把握と交流をはかることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
市民センター利用団体のより多くの参加、出店、発表			
行政側			
出店、発表者へのより良い環境づくり。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	市民ウォーキング	担当課	市民活動推進課 今井市民センター
------	----------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年1月26日 場所：今井地区から谷野地区までの霞丘陵約6km
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民の体力増強・健康保持と合わせて「霞丘陵の自然」にふれあい、地域の連帯と異年齢層の交流と親睦を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	多くの市民が参加することにより、地域コミュニティの進展につなげる。
(4) 実施内容(実績値等)	今井地区から谷野地区までの霞丘陵約6kmウォーキングする。
(5) 事業経費(決算額)	支出額はなし。

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市自治会連合会第11支会 参加人数：115人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	第11支会を中心に参加者4を集い、地域と住民相互の親睦を深める。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：第11支会各種団体への参加要請、交通整理員確保と甘酒等を提供する。 行政側：コースの検討と資料等を作成する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
霞丘陵の観察とともに、参加者相互の親睦を図ることができた。			
行政側			
行政と地域との親睦と協力を深めることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
より多くの参加者の確保と交通安全の徹底。			
行政側			
次年度以降の実施に向けた新たなコースの検討。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	市民課等窓口における広告掲載封筒の設置	担当課	市民課戸籍係
------	---------------------	-----	--------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:年間 場所:市民課、市民税課、資産税課、収納課、健康課、市民センター(出張所含む)、保険年金課等
2継続事業	
(2) 事業の目的	証明書等の持ち帰り用封筒について、広告掲載封筒とすることにより経費の削減を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民サービスの向上および経費削減。角6 76,000枚、角2 12,000枚納入。
(4) 実施内容(実績値等)	広告掲載封筒を作成し、証明書等の持ち帰り用として、市民に利用してもらう。
(5) 事業経費(決算額)	無

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:株郵宣企画 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市有料広告掲載取扱要綱が実施されたことに伴い、市民課等の窓口に市民用に設置してある封筒があるため、青梅市使用料等有料化検討委員会で協議した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:封筒作成 行政側:窓口設置、配布

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側 広告掲載により宣伝効果が大きい。			
行政側 経費削減ができ、多くの窓口封筒が用意できる。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 納入枚数の検討			
行政側 市のPRの掲載内容を検討する。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	第48回青梅マラソン大会	担当課	スポーツ推進課スポーツ推進係
------	--------------	-----	----------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間:平成26年2月16日(日) *積雪のため中止となった 場所:10キロの部:日本たばこ産業青梅営業所東～日向和田(折返し)～青梅市役所前 30キロの部:日本たばこ産業青梅営業所東～川井(折返し)～青梅市総合体育館前</p>
<p>2継続事業</p>
<p>(2) 事業の目的 ①参加者の競技力向上と走ることを楽しむ場の提供 ②外国選手を含む参加者間の親睦、交流およびボランティア等も含めた大会関係者間の地域交流を図る</p>
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等) 参加者(定員20,000人)を募集し、安全なマラソン大会を運営する。</p>
<p>(4) 実施内容(実績値等) ロードレース ①10キロの部 ②30キロの部 ③ジュニアの部</p>
<p>(5) 事業経費(決算額) ボランティア用帽子:731,430円 (弁当代は中止のため支払いなし) いずれも一般財団法人青梅マラソン財団からの支出、市の支出はなし</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 3.事業協力</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:青梅市スポーツ推進委員協議会、一般社団法人青梅市体育協会、自治会、ボーイスカウト、青梅交通安全協会、青梅市陸上競技協会(主催団体の一つなので事業共催)など 参加人数:2,288人</p>
<p>(3) 協働の提案者 1行政からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ 参加者、沿道の人出が非常に多い大会であり、よりスムーズな大会運営を行うために、広範囲の人々の協力を求めた。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階 その他の場合具体的に(青梅市陸上競技協会は主催団体の一つなので「1. 計画段階」)</p>
<p>(6) 役割分担 市民側:競技運営、観衆を整理するコース整理員や給水係、レース後のコース清掃など 行政側:大会の企画、競技運営など</p>

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	1	1
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	1	1
	(7) 事業実施は円滑になされた	1	1
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	1	1
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	1	1
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
行政側			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 大会の詳細についての情報がボランティア全員に伝わるようにしてもらいたい。(ランナー・観客への案内等で必要なため)			
行政側 ① ボランティアの割り当て(役割分担、配置場所)を再検討する。 ② 天候により大会開催の可否が微妙な際の、ボランティアの開催可否確認方法の周知を徹底する。 ③ より安全な大会運営を行うために、関係機関と連携を取り警備・救護体制を整えるとともにボランティアへのテロ対策、医務救護の知識を伝える必要がある。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「青梅の森」市民ボランティア講座	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年4月23日、5月25日、10月13日、11月24日、12月8日、平成26年1月28日の計6回 場所:特別緑地保全地区「青梅の森」
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民の森として位置づけられた「青梅の森」の周知と、ボランティアの育成
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民の森として位置づけられた「青梅の森」の周知と、ボランティアの育成
(4) 実施内容(実績値等)	下草刈りを行ない、森林保全活動体験を行なった。また、植物等を主題にしたフィールド講座も開催した。
(5) 事業経費(決算額)	講師報償金12,000円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議、「青梅の森」市民ボランティア講座ボランティア 参加人数:30人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成22年度のおうめ環境市民会議から協働提案を受け、公園緑地課とともに協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業原案、実踏調査、当日のサポート、講師の選任・依頼等 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 青梅の森の保全の意義を広範な市民に知ってもらうために「広報おうめ」等を通じてPRを行うことにより多くの参加を得ることができた。また、様々な企画や親子参加によって保全の理解を深めることができた。			
行政側 青梅市内の身近な森である「青梅の森」を活用し、事業を行うことは、単に森林に対する意識を高めるだけでなく、青梅市内の森を守るといった啓発にも寄与していると考えている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 協力者による保全作業の定例化によって伐採と林内整理作業が進んできたが、これをさらに発展させるためにボランティア団体として組織化するとともに、さらに多様な人々が参加する企画により青梅の森の保全を進めていきたい。			
行政側 「青梅の森」で活動を行うための運営協議会が設立されたため、行政として担当の一本化が必要である。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境フェスタ2013	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年6月1日(土)～2日(日)(1日は準備) 場所:釜の淵市民館
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、市民啓発を行うこと
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する催事を通じ、市民啓発を行うこと
(4) 実施内容(実績値等)	環境関連団体、企業、事業者、教育関係者等による展示、ワークショップなど
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費、講師報償費、印刷製本費等 合計313,103円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議、おうめ環境フェスタ2013実行委員会、ボランティア等 参加人数:50名程度
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成20年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業原案、会場設営、展示物提供、ワークショップ・当日の運営全般、講師の選任・依頼等 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、会場、事業予算の確保等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 広報おうめやおうめ環境ニュースを通じ、呼びかけが出来たことが良かった。また、市民・行政が一体となって事業推進を図ったため、市民側の負担が軽減され、企画に専念でき、結果として内容も充実したものになった。</p>			
<p>行政側 市内の団体、企業、教育機関等の各主体の環境活動を集め、市民に向けてアピールするこの事業は啓発効果が高く、環境について考える場を提供できるといった点からも意義があると考えている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 環境政策課だけでなく、清掃リサイクル課と公園緑地課とも協力して事業できたため、これからは環境政策課に留まらず、複数の部署と連携した事業展開を図りたい。また、広報おうめだけでなく、他の媒体も積極的に活用し、周知を図りたい。</p>			
<p>行政側 参加主体の増加に伴い、実行委員会にはさらなる調整力が求められていること、また、限られた施設における会場運営や、事業規模が拡大することで、柔軟な対応や配慮が必要になってくると考えられる。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめ環境ニュースの発行	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年3月15日発行 場所:市内の新聞を取っている世帯および戸別配布を希望した世帯
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民感覚を取り入れた、市民目線の環境に関する広報紙を発行し、市民啓発をすること。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	平成25年度における市の取り組みや、多摩川周辺で活動する市民団体の紹介等を通じ、環境への意識啓発を図る。
(4) 実施内容(実績値等)	おうめ環境フェスタ特集号として、紙面の構成や内容について協議を行った。市の事業紹介にも紙面を割いた。
(5) 事業経費(決算額)	印刷製本費 195,300円(支出額) 広報配布委託料・戸別配布委託料 243,546円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ環境市民会議 参加人数:20人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成19年度におうめ環境市民会議から協働提案を受け協議開始
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:記事の作成、イラスト作成、レイアウト原案 行政側:記事の作成、編集、印刷業者との調整、印刷費等の予算確保

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 森の保全や自然観察等、行政と市民がともに地域の環境の課題に取り組む姿勢を一般市民にアピールすることができた。青梅市の自然環境の概要、多摩川を通じた海と山とのつながり、アユをはじめ地域の動植物に市民が関心をもつ呼び水となった。</p>			
<p>行政側 市民団体と協働で編集を行うことで、市民感覚を取り入れた市民目線の発行物を作成できたと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 環境ニュースの目的である市内の環境活動の紹介、環境意識の向上、参加の呼びかけ等のためには、さらに踏み込んだ内容とするとともに、多くの市民の目にとまり、理解しやすいデザインとすることが望まれる。</p>			
<p>行政側 市民感覚を取り入れるといったコンセプトに対して、一定の成果はあったと考えているが、老若男女に読みやすいような紙面構成にすることが良いと考える。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	クールビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	---------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年5月12日～平成25年10月12日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	印刷製本費10,500円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「クールビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:クールビズの実践 行政側:企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、クールビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 クールビズについては、周知されつつあるが、更なる意識啓発のため、啓発物品(卓上のぼり旗)の提供と、それをういた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	みんなで打ち水！	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年8月4日～平成25年8月10日(打ち水ウィーク) ※8月8日は全市一斉打ち水 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの冷房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(クールビズポスターに打ち水についても記載しているため、それを活用した。)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡充を目的に、平成21年に市内の各種団体、事業者が一同に会する環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「打ち水」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:打ち水の実践 行政側:企画と周知活動(ポスター掲出、広報等のメディア展開)

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		3
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、打ち水運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 広報やホームページで周知する他に、クールビズ・打ち水ポスターを作成したことで、ある程度の啓発はできたと考えるが、今後においても、更なる周知啓発を行い、市民や事業者等市全体を巻き込んだ事業の展開に努めたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ウォームビズ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年11月15日～平成26年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、事務所などの暖房温度抑制を通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	印刷製本費7,350円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体、その他の賛同団体・企業 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「ウォームビズ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:ウォームビズの実践 行政側:企画と啓発物品(卓上のぼり旗)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、ウォームビズ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 今後も啓発物品(卓上のぼり旗)やポスターを用いた周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	エコドライブ運動	担当課	環境政策課管理係
------	----------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年4月1日～平成26年3月31日 場所:青梅市の事務事業施設、環境連絡会加盟団体、その他の賛同団体・企業
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市環境連絡会を筆頭に市内の各種団体、事業者に協力を要請、保有車両のエコドライブを通じた省エネの取組を実施した。
(5) 事業経費(決算額)	0円(ウォームビズ・エコドライブポスターにエコドライブについても記載しているため、それを活用した。)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市自治会連合会他、環境連絡会登録団体および趣旨賛同団体 参加人数:
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	環境問題に関する広範な取り組みの連携と拡大を目的に、平成21年に各種団体、事業者等と環境連絡会を発足、手軽にできる身近な取り組みとして「エコドライブ」に取り組んだ。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:エコドライブ運動の実践 行政側:企画と啓発物品(ステッカー)の配布、広報等のメディア展開、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた		3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された		4
	(3) 協働の役割分担は適切だった		3
	(4) 協働相手は適切だった		4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた		4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された		4
	(7) 事業実施は円滑になされた		3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された		3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった		4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った		3
(11) 協働による効果			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 環境問題の省エネに関しては、事業者、家庭などの民生部門全体を巻き込んだ活動が重要である。そういった点では、エコドライブ運動は、市全体を対象とした取り組みであり、市民1人ひとり環境意識向上に役立っている。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ※協働関係者が多岐にわたり、集約調整が困難なため市民側の評価等については省略			
行政側 今後も啓発物品(ステッカー)の提供やポスターの掲示等により、周知力の強化、活動内容のフィードバック等、改善を行って事業の浸透に努めたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	みどりのカーテンコンテスト	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年5月11日～10月26日(募集の事前告知から表彰式まで) 場所:青梅ガス株式会社本社(表彰式会場)
2継続事業	
(2) 事業の目的	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地球温暖化防止に向けた環境および緑の保全意識の向上
(4) 実施内容(実績値等)	市内の一般家庭、事業所を対象に、みどりのカーテンコンテストを実施、優秀者を賞するとともに、成果を啓発目的に広報・ホームページ等でフィードバック活用
(5) 事業経費(決算額)	報償品費・消耗品費6,806円(支出額)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅ガス株式会社、西東京農業協同組合 参加人数:20人程度(表彰式出席者、審査員、表彰式会場関係者等)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅ガス(株)から環境・地域貢献協力の申し出を受け、行政側からみどりのカーテンコンテスト事業を提案、合意した。その後、青梅ガス(株)を介して西東京農業協同組合が加わった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:副賞代、消耗品、表彰式会場等の提供および審査協力 行政側:周知活動(広報・ホームページ)および受付等の事務、表彰式会場運営協力

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 弊社の環境方針に相違ない事業であり、その他の環境活動啓蒙と相互に展開することで、市民への環境保全意識高揚を推進できたものと考え。 (青梅ガス株式会社) 市民に生きる物を育てることのむずかしさ、育った時の喜びを体現させることができた。(西東京農業協同組合)</p> <p>行政側 みどりのカーテンコンテストの実施を行政側、市民側がそれぞれ広報することで、より多くの市民に、より広く周知できた。また、みどりのカーテンコンテストの周知は、みどりのカーテンそのものへの取り組み喚起につながったと考える。受賞作品選定において、専門家の審査協力を得られたこと、青梅ガス(株)のお客様感謝祭を利用したオープンな表彰式も事業を充実させるものとなった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 「かんたん・楽しい・きれい」等のキーワードを盛り込み、当該事業が身近でより魅力ある環境保全活動と認識されるようメディア利用の検討が必要。(青梅ガス株式会社) 高位入賞者の固定化傾向が見受けられるため、その対策と参加者の拡大を図る必要がある。(西東京農業協同組合)</p> <p>行政側 今後も、新たにみどりのカーテンに取り組む家庭、団体が増え、コンテストにも参加していただけるようアピール方法を検討したい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	ガサガサ水辺の探検隊	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年7月6日(土) 場所:河辺市民球技場前の川原と管理棟前広場
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	ヤマメ・鱒をつかみ取りして自分で調理、ライフベストを着用しての安全指導の他、水の中に棲む色々な生物を捕まえて観察するガサガサ体験など
(5) 事業経費(決算額)	291,500円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:青梅・多摩川水辺のフォーラム9人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側:市民側では企画、運営及び小学校との連携を主な役割とした。行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行っていただいた。比較的連携がよかったと思います。			
行政側:当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を瞠るものがあり、またそれらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらい、協働による効果はかなりあったと考える。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:子ども達がカッターナイフで魚をさばくとき怪我しないように、必ず親子でさばくことを徹底する。魚を焼く数が大変多いので火傷、熱中症に気をつけること。魚のつかみ取りをするための生け簀づくりが大変重労働のため、次年度は何らかの方法を検討する。			
行政側:夏場の水辺での事業になるため、安全面での徹底がより一層必要である。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	下水処理場の仕組みが学べる親子見学会	担当課	環境政策課管理係
------	--------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年8月26日(月) 場所:多摩川上流水再生センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに日頃使った水の処理方法について学び、水の大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに日頃使った水の処理方法について学び、水の大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	多摩川上流水再生センターにて、水の処理方法について学ぶ事業
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:青梅・多摩川水辺のフォーラム3人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として、青梅・多摩川水辺のフォーラムから提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 市民側では企画、運営を主な役割とした。行政側は広報、応募者の受付を行っていただいた。比較的連携が良かったと思われます。			
行政側:市民側では企画、運営を主な役割を行い、行政側は広報、応募者の受付を行った。比較的連携が良かったと思う。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 応募者が大変少なかった。見学場所が昭島の多摩川水再生センターとかなり遠いことが原因とも考えられます。我々の生活にとって下水処理は大変重要なことです。市民として一度は見学して理解する必要があると考えます。そのようなことから次回はマイクロバスを準備してはいかがでしょうか。			
行政側:応募者が大変少なかった。見学場所が昭島の多摩川水再生センターとかなり遠いことが原因とも考えられる。有意義な見学会なので、周知方法を検討したい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	浄水場の仕組みが学べる親子見学会	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年7月31日(水) 場所:小作浄水場
1単年度事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに日頃使っている水道水の仕組みについて学び、水の大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに日頃使っている水道水の仕組みについて学び、水の大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	小作浄水場にて、その仕組みにについて学ぶ事業
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:青梅・多摩川水辺のフォーラム5人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として、青梅・多摩川水辺のフォーラムから提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 市民側では企画、運営を主な役割とした。行政側は広報、応募者の受付を行っていただいた。比較的連携が良かったと思われま。			
行政側:市民側では企画、運営を主な役割を行い、行政側は広報、応募者の受付を行った。比較的連携が良かったと思う。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 応募者が大変少なかった。その原因は、青梅市内の小学校が独自に浄水場の見学を実施しているためと考えられる。今後はこの事業を継続するかどうかを検討することとした。			
行政側:応募者が大変少なかった。その原因は、青梅市内の小学校が独自に浄水場の見学を実施しているためと考えられる。今後はこの事業を継続するかどうかを検討することとした。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	多摩川まるごと遊び塾	担当課	環境政策課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年9月7日(土) 場所:河辺市民球技場前の川原と管理棟前広場
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。
(4) 実施内容(実績値等)	河辺の川原で自然体験および水生生物観察、安全教室、広場でタッチングプールで生き物と触れ合う
(5) 事業経費(決算額)	244,475円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅・多摩川水辺のフォーラム 参加人数:青梅・多摩川水辺のフォーラム8名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	おうめ環境市民会議水辺チームから協働提案があったことを契機に、平成19年度から協働を行っている。「ふるさとの川プログラム」の親水事業の拡大にともない、現在の形に移行。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側:市民側では企画、運営及び小学校との連携を主な役割とした。行政側は予算、広報やライフジャケットなどの準備を行っていただいた。比較的連携がよかったと思います。</p>			
<p>行政側:川が流域住民にとって単なる自然の一部ではなく、様々な役割や問題点を抱えていること、生命までも含めたプログラムは、自然環境に加え総合学習的な視点も併せ持つものとして評価できる。子どもたちとともに、保護者も対象として全体を運営している点も同様である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:この事業の終わり頃、大雨が降り川の増水が心配された。幸い事故はありませんでしたが、今後天候に十分気をつける必要があります。また、川遊びが中心なので安全面を徹底するために安全担当者を決めておく必要があります。</p>			
<p>行政側:事業規模が年々増大になっていること、また学校やPTA関係者のバックアップも取れてる点は評価されるべきであるが、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底が必要であると考え</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもカヤック体験教室	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年7月20日(土) 場所:釜の淵プール下川原、釜の淵市民館
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	カヌー(カヤック)操作の入門コースと安全指導
(5) 事業経費(決算額)	150,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:美しい多摩川フォーラム 参加人数:4人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業のプランニング、カヌー協会との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側:青梅市共催の看板効果は、市民に安心感を与え、参加者の大半は青梅市広報を見て申込みをされる方であった。また、釜の淵市民館の利用(座学および休憩所)など、募集および施設利用の両面において、協働効果は絶大であった。</p>			
<p>行政側:青梅市では複数の団体と、上流の御岳渓谷から下流の河辺川原までの間で様々な親水事業を展開しているが、中でもカヤックという専門の用具と指導者を要する当該事業はとりわけ異彩を放っており、親水事業の多様性という観点から重要な事業であり、実績から見ても充分効果的だと考える。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:午前中の座学では、スクリーンを使用して、安全学習を行っているが、実際、川の中央は流れが速く、特に増水時には、流されるリスクが高まるので、青梅市カヌー協会の十分なスタッフ(指導員)を配置し、安全確保については、引き続き最大限行っていきたい。</p>			
<p>行政側:運営面においては、美しい多摩川フォーラムとカヌー協会の指導により、効率的に実施されていると考えている。ただし、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底をして、より良い事業展開が出来たらと考えている。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	炭焼き体験と水辺の交流会	担当課	環境政策課管理係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年8月23日(金) 場所:奥多摩フィッシングセンター横、美しい多摩川フォーラム「御岳の森」
2継続事業	
(2) 事業の目的	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	炭焼きや水辺の安全教室を通じ、自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	炭焼き座学⇒竹割り⇒竹の窯詰め⇒やまめ・ニジマスつかみどり体験・魚の解剖学習⇒昼食⇒着火・中止め～燃焼動向確認⇒水辺の安全教室⇒ライフジャケット浮力体験⇒川遊び体験
(5) 事業経費(決算額)	142,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:美しい多摩川フォーラム 参加人数:5人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、当該事業は平成23年度から開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業のプランニング、NPO 法人日本エコクラブ等との調整および当日スタッフとして運営に当たる。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側：青梅市共催の看板効果は、市民に安心感を与え、青梅市広報に募集記事を掲載すると、短期間で定員オーバーとなった。また、ライフジャケットを貸し出していただくなど、協働による効果は絶大であった。</p>			
<p>行政側：内容、運営体制ともに安定感がある。同団体が所有管理する炭焼き釜を利用した炭焼き体験と、周辺の自然豊かな川での自然体験をミックスした内容は、環境学習としての密度も高い。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側：昼食は、奥多摩郷土弁当、お茶を提供しているが、ゴミは参加者各自で持ち帰るように協力をお願いしたところ、ゴミの分量が大幅に減少した。</p>			
<p>行政側：事業の細部まで行き届いているが、夏場の水辺での事業になるため、更なる安全面の徹底をして、より良い事業展開が出来たらと考えている。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	がんばれ！あゆっ子2013	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年5月12日(日) 場所:釜の淵公園鮎美橋上流の河川敷
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	稚鮎の放流とヤマメのつかみどり、ガサガサ水辺の移動水族館館長山崎充哲氏らの講義を通じ、河川環境保護の重要性も説明した。
(5) 事業経費(決算額)	90,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人奥多摩川友愛会会員 参加人数:15名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:天然鮎の遡上に関する問題点、多摩川の自然に関する問題点を実際の川を目の前にして説明し理解してもらう効果はあがってきていると思う。また、行政側の備品提供等、暑い中での会場設置などの助成があればこそ継続できております。会としても大変感謝しております。</p>			
<p>行政側:市民にとって身近な多摩川における現状と、天然鮎の遡上に関する課題といった、普段耳にすることのない問題を、子どもたちに説明し、考えるきっかけを作る意義は大きいと考える。また、会の持つマンパワーと豊富な人材は、当日の運営に安定感を与えている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:参加者の安全管理は第一に考えねばならぬものと思います。ライフジャケットを支給して戴いてもいますので、川での安全な遊び方、注意すべきところなどの指導にも力を入れていきたいと思ひます。</p>			
<p>行政側:当日は、釜の淵新緑祭と同時開催であるため、参加者以外の来場者も多い。今後も引き続き視野を広くもって、安全管理に留意することを希望する。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	親子さかな釣り体験教室	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間:平成25年10月20日(日) 場所:奥多摩フィッシングセンター</p>
<p>2継続事業</p>
<p>(2) 事業の目的</p> <p>子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。</p>
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等)</p> <p>子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。</p>
<p>(4) 実施内容(実績値等)</p> <p>溪流釣りの未経験の参加者に、しかけ作りから一つひとつ順に指導して、釣りを通した自然体験をしてもらうと同時に、ガサガサ水辺の移動水族館館長山崎充哲氏の講義、奥多摩川友愛会会員の講義指導を通じ、河川環境保護の重要性も説明した。</p>
<p>(5) 事業経費(決算額)</p> <p>202,000円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態</p> <p>2.事業共催</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数</p> <p>団体名:NPO法人奥多摩川友愛会 参加人数:8人</p>
<p>(3) 協働の提案者</p> <p>2団体等からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ</p> <p>総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業の一環として、平成18年度から協働事業としてスタートした。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。</p> <p>1. 計画段階</p> <p>その他の場合具体的に(</p>
<p>(6) 役割分担</p> <p>市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。</p> <p>行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。</p>

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:協働事業として市民に対して事業を行なうことにより、行政、参加団体が自分達の事業分担をしっかりと行なう事が出来、その事業で伝えたい事、行動してもらいたいことなど参加市民により強く伝えられ、さらに広域に浸透し、効果をあげる事が期待出来る。</p>			
<p>行政側:協働団体の持つマンパワーは、当該事業にも十分に発揮されており、指導者の人材も豊富である。このことは、当該事業の安全管理および参加者への対応も十分になされるということであり、行政だけでは不十分な点を協働団体がフォローする、理想的な形といえる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:想像した以上に指導者に頼る参加者が多いので、親子魚釣り教室となっている様に親子の絆を強める為の事業でもあるため、要点は教えてもその後は親子で協力して魚を釣るようにしていきたい。</p>			
<p>行政側:無原則に竿の持参を認めると、「教室」の趣旨から離れ、単なるレクリエーションになってしまうことが懸念されるため、使用する竿の数は親子で1本を基本とした。 今後も、自然環境への関心が深まるよう、事業内容について充実させていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	いかだ遊び2013in霞川	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年7月27日(土) 場所:今寺天皇塚水田近くの霞川(天本橋周辺)
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらおう。
(4) 実施内容(実績値等)	手製のいかだで川を上ったり下ったり、子どもたち自身でいかだを操る川遊び。
(5) 事業経費(決算額)	78,500円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:霞川くらしの楽校会員、いかだ作りと操作指導講師ほかボランティア含め24名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	総合長期計画のチャレンジプログラム「ふるさとの川プログラム」のソフト事業拡充の目的で、平成20年に「水辺の連絡会」を設立、これを契機に協働をスタートさせた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：応募数から見れば物足りないところがあるが、初めてペアを組む知らない小学生同士が笑顔で一致協力して竿を操ったり、川に飛び込んだりと参加した子ども達の行動を見ればその目的は達成されたと思っています。今年も隣接する第三中学校の生徒さんがボランティアとして参加してくれました。小学生、中学生、そして大人との繋がりが何かを生み出すものと思っています。</p> <p>行政側:事業実施に際し、市民団体のもつ様々なノウハウ、プログラムは豊富かつ充実したものであり、過去も含め市民協働に相応しい事業となっている。 実施団体である霞川くらしの楽校は、霞川とその周辺の自然や文化、歴史等を題材に、地元に着目した様々な事業を展開中であり、地域の認知度も高い。 今後も市民の視点に立ちつつ、市民団体ならではの斬新かつ有益な事業提案に期待している。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側：(1) 課題1・開催場所が交通不便なところであり、駐車スペースが無いことから参加をためらうことも考えられます・・・今後周辺の地主さんに協力を依頼し一部を駐車スペースにすることも考えたい。(2) 課題2・トイレ・・・一番近いトイレで会場から100m、レンタルトイレの設置も視野にいれていきたい。</p> <p>行政側：夏場の水辺での事業になるため、安全面の徹底がより一層必要である。また、さらに多くの子どもたちに事業を参加してもらおうための工夫が必要であると感じた。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	じゃぶじゃぶ川の中で遊んじゃおー	担当課	環境政策課管理係
------	------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年9月21日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋上流
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	身近な霞川をフィールドとした遊び方自由の水辺体験。
(5) 事業経費(決算額)	18,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:霞川くらしの楽校会員、ボランティア含め9名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から霞川の新たな親水事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側：初めての行事であったが、保護者を含めて100人を超える市民が集まった。そして閉門時間の午後3時まで目いっぱい遊んでいた光景は、大人を含めていかに川で遊ぶことの楽しさを求めているかが伺えた。</p>			
<p>行政側:初めての行事であったが、保護者を含めて100人を超える市民が集まった。終了時間まで遊んでいた光景をみると、いかに川で遊ぶことの楽しさを求めているかが伺えた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側;課題1 他の協働事業でも同じであるが、会場が不便なところである、いろいろ問題はあろうかとも思うが駐車場について考えて欲しい、課題2:これも他の問題と同じであるがトイレが遠く不便である、何か解決はないものか。課題:3 釣りでも、網でも、何でも使用して遊んで良い計画であったが、釣りをしている近くでバシャ、バシャするため釣りにはならなかった。同じ川で釣りと網での魚とりを行うには無理がある。</p>			
<p>行政側:霞川という水辺での事業となるので、安全面での配慮がより一層必要になると考える。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	魚釣り～僕も私も釣り名人～	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年9月14日(土) 場所:市内を流れる霞川・藤の木橋上流
2継続事業	
(2) 事業の目的	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子どもたちに水辺に親しんでもらい、水辺の自然の楽しさ、大切さを感じてもらう。
(4) 実施内容(実績値等)	身近な霞川をフィールドとした魚釣り体験。
(5) 事業経費(決算額)	18,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:霞川くらしの楽校 参加人数:霞川くらしの楽校会員、指導講師ほかボランティア含め11名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成24年度から霞川に棲む生きものにスポットを当てた事業として提案があり、実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:事業の基本プランを練る。当日の直接運営を行う。 行政側:事業内容に関する協議と、広報等のメディアによる募集、事業予算の確保。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側：多摩川に比べ、知名度の低い霞川ではあるが、蓋を開けてみると、早々定員に達したことにまずは一安心。親子が協力して釣りに興じている微笑ましい姿が至る所で見受けられたり、魚を釣り上げる毎に歓声をあげている子ども達。そのような光景から親水事業としての目的が達成されたものと思われま</p> <p>行政側：平成24年度から開始された協働事業であるが、参加者には霞川に棲む生きものについて、釣りを通して学ぶ良い機会になったと考える。事前準備や当日運営についても、参加者が楽しく参加できるような工夫が随所で見られ、結果として有益な事業であったと考えている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側：(1) 課題1・・・会場の安全を図る為、河原の草刈りが必要である。前回は、炎天下で延べ4日間自分達で行ったがきつかった。今回は西多摩建設事務所の協力を得られたが、今後とも協力をお願いする必要はある。(2) 課題2・・・熱中症対策・・・会場となる河川には木陰が全くありません。フェンスを利用して日陰ができる工夫を考えたい。(3) 課題3・・・会場は1時間に一本のバスしか走らない交通不便なところ、駐車スペースの確保が出来ればもっと人気が高くなるのでは。(4) 課題4・・・会場近くのグラウンドのトイレをお借りするが、100m以上離れており、子ども達には大変である。レンタルトイレの検討も必要ではないか。</p> <p>行政側：霞川という水辺での事業となるので、安全面での配慮がより一層必要になると考える。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	飼い主のいない猫のための「里親会」	担当課	環境政策課管理係
------	-------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年5月26日(日)、平成25年11月10日(日) 場所:青梅市役所仮設駐車場
2継続事業	
(2) 事業の目的	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	責任を持って猫を大切に飼っていただける飼い主を見つけるとともに、飼い主のいない猫に関する啓発を行う。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市役所仮設駐車場にて、里親会を実施する。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ猫の会、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」 参加人数: 5/26 14人、 11/10 16人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成25年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:当日の運営 行政側:広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側:行政との協働により、市民の信頼度と保護猫への理解を得られた。会場に来る方の数が多いので、里親さんだけでなく、猫の保護活動のPRになる。			
行政側:ボランティア団体との協働事業により、飼い主のいない猫の里親探し事業を多くの市民にPRできたと思う。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:ボランティアグループ全体の参加と、事前、事後の話し合いの場が必要と考えます。里親会の会場を市役所の駐車場でできないか検討したい。里親会の宣伝を上手にした方がよい。			
行政側:周知方法を検討し、多くの市民の参加を期待したい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	動物愛護啓発映画上映会	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年9月29日(日)、平成26年3月23日(日) 場所:青梅市役所2階204～206会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	映画を通して動物愛護啓発と飼い主のいない猫についての周知
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	映画を通して動物愛護啓発と飼い主のいない猫についての周知
(4) 実施内容(実績値等)	犬や猫の命が失われていく現実と、命を救うため活動する人々の姿を描いたドキュメンタリー映画である「犬と猫と人間と」や、宮崎県で起きた実話をもとに作られた「ひまわりと子犬の7日間」を上映し、上映後、参加者にアンケートをとった。
(5) 事業経費(決算額)	72,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:おうめ猫の会、青梅にゃんにゃんサークル「WISH」、いのちを考える会・青梅 参加人数: 来場者 9/29 50人、 3/23 30人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	飼い主のいない猫についての周知も目的としているため、青梅市飼い主のいない猫譲渡事業補助金の交付対象団体であるおうめ猫の会と協働で実施した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:上映会に参加し、会の活動を知らせるポスター等の掲示、プリントの配布をした。 行政側:上映会の設営、実施

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
市民側:映画を通して野良猫、野良犬の現状を市民に理解してもらい、動物愛護に関心を持ってもらう機会となった。猫の保護活動に関して、上映会やパネル展示を通じ、ボランティア活動の内容を市民に知ってもらえた、理解してもらえたと思う。			
行政側:飼い主のいない猫について実際に、現場で活動している団体と協働で映画上映会を行うことで、動物愛護についての啓発のみならず、青梅市内での猫の問題等にも目を向けてもらう機会が持てた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:協働というより、行政の主導だった。事前に話し合いの場を設け、検討してほしかった。上映後、参加者にアンケートをとったが、その内容もボランティア団体には知らされなかった。高齢化が進み、猫問題は青梅の社会問題となっています。行き場のない猫には行政も目を向けてほしい。外にいる猫の不妊手術は、人間と猫が共に生きていくためにしなければならない問題です。ボランティアだけでは対応できないところまでできています。 上映会の宣伝をもっと上手にした方がよい。			
行政側:上映会に参加された方に問題提議だけでなく、団体が活動していること自体もアピールし、関心を持っていただけるようにする必要がある。また、会場も来場しやすい場所、時期を考え、実施する。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	さくらねこ無料不妊手術事業	担当課	環境政策課管理係
------	---------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年12月22日～平成26年1月31日 場所:市内各所
2継続事業	
(2) 事業の目的	公益財団法人どうぶつ基金から受領した「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」を使用し、市内の飼い主のいない猫を捕獲、不妊去勢手術を施行し、捕獲した場所に戻す。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	実施予定頭数 60頭
(4) 実施内容(実績値等)	手術実施頭数 54頭
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:いのちを考える会・青梅、おうめ猫の会 参加人数:8人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」行政枠が利用できることがわかったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:猫の捕獲、動物病院への運搬、捕獲した場所に戻す 行政側:公益財団法人どうぶつ基金へ、「さくらねこ無料不妊去勢手術チケット」の申請、実施報告

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側: 捕獲、手術施行の前後に地域住民に知らせる際、行政との協働であることで、住民からの理解や協力を得やすかった。協働により、不妊手術チケットの確保が容易となり、不妊手術事業がやりやすくなった。</p> <p>行政側: 行政ではできない捕獲、不妊去勢手術をボランティア団体とともに実施することができ、54頭もの野良猫に不妊去勢手術を施行できたことは、青梅市の野良猫対策の大きな前進となった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側: 不妊手術チケットは無料だが、病院の数が少なく人手がかかる。不妊手術だけでなく、ノミ取りやワクチンに費用がかかる。</p> <p>行政側: 今後もボランティア団体とともに協働事業を進め、多くの野良猫に不妊去勢手術を施行させたいと考える。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おうめこどもエコクラブ	担当課	環境政策課管理係
------	-------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年4月20日(土)、7月20日(土)、8月17日(土)、10月19日(土)、12月21日(土)、平成26年2月15日(土) ※2月は大雪のため中止。2月の講座内容は26年度へ。 場所:青梅市新町市民センターほか
2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市の財産である、青梅市の自然について、市内の子どもたちや保護者に伝え、自然環境についての理解、環境活動への視野を広げる。また自分の住んでいる地域を知り、地域を慈しむ心も育てる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	自然観察、農業体験、リサイクル活動等を通じて、自然環境についての理解を深める
(4) 実施内容(実績値等)	平成25年度は5回実施し、子ども146人、保護者67人が参加した。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 民立おうめ楽校(おうめこどもエコクラブプロジェクト) 参加人数: 民立おうめ楽校 各回3~5人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成23年度から新たな事業として提案があった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 企画立案、当日の運営 行政側: 広報等による周知、会場準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 広報をしていただいたおかげで、多くの青梅市民に周知できました。また任意団体のため、団体住所が代表宅、連絡先も代表個人の携帯電話ということから、連絡窓口をメールしか持っておらず、また昼間の連絡がスタッフの仕事の関係でとりにくいこともあり、苦勞している部分がありました。昼間の市役所での電話対応や訪問できる住所があり、参加者の方に安心感を与えられたこと、また迅速な対応をとることができました。そして青梅市と協働ということでの親御さんの信頼度もあり、はじめて参加の方も参加しやすかったと聞いております。事前準備では、会場の手配、物品準備、下見などフォローしていただきました。当日の講座も、受付を中心にお手伝いいただいたおかげでスムーズな運営ができ、大変助かりました。			
行政側 団体と協働することにより、子どもに対する環境教育を実施することができ、有意義であった。おうめこどもエコクラブのスタッフは、優秀かつ活動的で人間味があり、質の高い事業が実施できた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 青梅市が周知をしていただいた結果、現在50名の会員がおり、50名とともにどのように行っていくかの組織立てや、会員が一定数以上増えた場合の対応も考えていく必要があります。会計、会場準備、講座内容などについては、スタッフが仕事で学んだノウハウがあるので、会員の協力も得ながら分担してしっかり準備をして活動できればと思います。より多くの青梅市民が環境教育を学べる体制作りをし、学んだ子どもがスタッフになり、団体を支えていくような持続可能なしくみ作りが目標です。みんなで支え合いながら子どもを地域が育て、青梅市の環境を守っていくかたちを最終的には実現したいです。 これまでの活動を通し、環境教育をうける機会を市民から市民へと提供するエコクラブの取組みは、新しい地域活性の手法として成功しつつあると思います。またどのような形であれ青梅市と関わりを続け、行政の想いも込められた”おうめこどもエコクラブ”と市民に認識され続けることは、官民一体となった環境教育政策として、地域のつながりや協力体制を保つためには有効であると思っています。よって今後も、環境政策の課題と展望を青梅市と共有し、必要に応じて協力し合いながら、活動していきたいと思っています。			
行政側 今後もおうめこどもエコクラブと協働で、子ども向けの環境教育を実施していきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」および「ごみ収集カレンダー」の音声化事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	--	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年4月1日～平成26年3月31日 場所:特になし
2継続事業	
(2) 事業の目的	視覚障害者等の一人一人に「ごみは、資源である」という認識をしていただくため、青梅市における正しいごみの分別方法とリサイクル方法についてを音声版を作製し周知する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	申込希望者5人
(4) 実施内容(実績値等)	平成23年4月発行の「青梅市ごみ減量・資源リサイクルハンドブック」の変更箇所および平成25年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の音声版(デージー図書)の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。実績2人。
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:朗読ボランティアグループみすず会 参加人数:11人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	朗読ボランティアグループみすず会からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:CDに音声データを収録し、行政側に提供する。 行政側:広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へダビングしたCDを配布する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 利用者から恭は何のごみの日と確認できて喜ばれている。 また、ごみの分別も解りやすいとのこと。</p>			
<p>行政側 視覚障害者向けの点字版も作成しているが、点字はかなり勉強しないと読むことができなく、読める方は視覚障害者の1割程度とのこと。それに対し、音声版のCDは専用の機器またはパソコンがあれば簡単に聞くことができ、より多くの視覚障害者に配布が可能となっている。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 1枚のCDを作成するには、CD上録音・編集・校正等の作業があります。この作業をボランティアで毎年実施するには大変な労力と経費を必要とします。(CDのラベル印刷・インクジェット代等)作業料、インクジェット代を市側で負担してほしい。配布方法のPRも広報、窓口等でたえず呼びかけてほしい。</p>			
<p>行政側 利用者の意見も聞いて改善点があれば直して行く。 さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	生ごみたい肥化(ダンボールコンポスト)事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	-----------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 講習会 平成25年5月18日、10月19日、勉強会 平成25年6月15日、11月16日 場所: 講習会 市役所玄関前ロータリー、勉強会 福祉センター
2 継続事業	
(2) 事業の目的	家庭から排出される生ごみをダンボールコンポストを利用してたい肥化し、ごみの減量化と資源の再生利用を図るとともに循環型社会の形成を促進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	モニター申込み 計 39 人
(4) 実施内容(実績値等)	モニターに対して家庭で簡単にできる生ごみたい肥化方法を直接指導し、その後、勉強会、電話相談等でフォローする。これにより生ごみの減量、資源化を促進する。
(5) 事業経費(決算額)	64,692円(ピートモス、もみ殻くん炭等消耗品)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3. 事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅・生ごみグルグルネット 参加人数: 6人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	たい肥化を実践しているグループであったことから、協働事業を開始した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講習会・勉強会の進行・会場準備 行政側: 広報おうめ、市ウェブサイトによる周知、消耗品等の準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 市が募集を行うことで応募への安心感がある。 平成25年度は市民提案協働事業に採用され、ダンボールコンポストで作ったたい肥を生ごみたい肥の実験畑で受入れを行った。</p>			
<p>行政側 モニター参加者のアンケートから各回7～8割の方が継続したいと考えており、生ごみの減量、資源化に有効な事業である。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 平成18年に始めてから300世帯以上の参加があった。ごみを減らそうという市民の思いが地道に広がっている。今後はモニターへのフォロー体制の確保や、学校・自治会等への出前講座等を通じた広がり期待したい。また、平成25年度は市民提案協働事業に採用され、ダンボールコンポストで作ったたい肥を生ごみたい肥の実験畑で受入れを行ったが、継続的な受入れ体制の確保が課題である。</p>			
<p>行政側 平成25年度は市民提案協働事業に採用され、ダンボールコンポストで作ったたい肥を生ごみたい肥の実験畑で受入れを行った。今後、たい肥の使うところがない方への継続的なたい肥受け入れ体制の整備について検討が必要である。 講習会参加者の確保および継続的にダンボールコンポストを運用してもらうために事業のあり方を検討する。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「ごみ収集カレンダー」の点訳事業	担当課	清掃リサイクル課 ごみ減量推進係
------	------------------	-----	---------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年4月1日～平成26年3月31日 場所:特になし
2継続事業	
(2) 事業の目的	視覚障害者等の一人一人に、青梅市における正しいごみの排出日について点字版を作製し周知する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	申込希望者5人
(4) 実施内容(実績値等)	平成25年度版「青梅市ごみ収集カレンダー」の点字版の作製。視覚障害者等への周知、希望者への配布。 実績3人。
(5) 事業経費(決算額)	3,770円(点字プリンター用紙)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅点訳グループ 参加人数:8人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	ごみ収集カレンダーを点訳できるグループであったため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:点字版の資料を作製し、行政側に提供する。 行政側:広報おうめ、市ウェブサイトで周知し、希望者へ配布する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	3
(11) 協働による効果			
市民側 希望する人に期限までに作成し、届けることができた。			
行政側 視覚障害者の中で少数派ではあるが、点字可読者にとって有益である。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 特になし。その都度確認しているので。			
行政側 点字プリンター用紙の費用については市の負担とした。 点訳グループおよび利用者の意見を聞き、問題点については改善に向け努力していく。 さらに多くの方に使用していただけるよう周知、広報する。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	---------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年6月1日～30日 場所:吹上しょうぶ公園
2継続事業	
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	述べ活動人数 96人
(4) 実施内容(実績値等)	しょうぶまつりでの来園者へのガイド(述べ活動人数 107人)
(5) 事業経費(決算額)	消耗品 1,512円 講師報償金 7,800円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:吹上しょうぶ公園ガイドボランティア 参加人数:24人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	来園者へのサービス向上を図る
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:ガイドの実施 行政側:講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
話合いは出来ても、お互いの立場の主張ではなかなか難しい。			
行政側			
ハナショウブに関する豊かな知識を活かし、来園者にガイドを実施してもらうことでサービス向上となった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
お互いの立場を認め合っでの譲り合い、協力体制が出来れば、もっとよくなると思う。			
行政側			
これまでと同様の体制では、継続が難しくなっている。よりよい体制等について、引き続き協議していきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	梅の公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課
------	-----------------	-----	-------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年3月8日～30日 場所:梅の公園
2継続事業	
(2) 事業の目的	来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	述べ活動人数 138人
(4) 実施内容(実績値等)	梅まつり有料期間の来園者へのガイド (述べ活動人数 142人)
(5) 事業経費(決算額)	0円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:梅の公園ガイドボランティア 参加人数:26人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	梅の公園有料期間中の利用者サービス向上
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:ガイドの実施 行政側:講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

梅の公園ボランティアを協同で行うことで例年どうり来園者に自由にガイドをすることが出来た。今年はテレビや新聞で伐採を大きく取り上げられたので観客が多かったが、ガイドの参加は例年と比べそれほど多くは無かったと思います。もっとガイドも市側も危機意識を高め、いつも以上の多くのガイドがボランティアが参加出来るような働きが有れば良かった。開催中もお互いの情報交換が少なかったように思います。

行政側

来園者に梅の公園のガイドを実施してもらうことでサービスの向上となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

公園の梅樹が伐採され3年後に植え直しされるまでの間、春に観光客が呼べるよう早急に早春の花を植えて宣伝する必要あり。青梅は梅で再生するまでも皆さんに楽しんで戴けるように頑張っている様子をマスコミに早めに発表して集客を落とさないように推進していく。ガイドが出来ることを提言してもらいたい。お互いの話し合いの場がもっと頻繁に有れば情報の交換が出来ると思います。これまではガイド側から要請したことをナカナカ実行して貰えなかったし、出来ない理由を聞かされなかった。

行政側

梅の公園内の梅樹がなくなったため、今後の梅の公園ガイドボランティアをどうするか話し合っていきたい。

協働事業評価シート(表)

事業名称	森林ボランティア育成講座	担当課	農林課林務係
------	--------------	-----	--------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年5月11日、7月13日、9月14日、12月7日、平成26年1月11日、3月8日(計6回) 場所:青梅の森 他
2継続事業	
(2) 事業の目的	森林ボランティアの育成と組織化を図り、適正な森林整備を行う。 また、平成22年度からは杉並区との間で協定を締結し、共同で実施することで講座受講者の拡大を図っている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間6回の講座開催。 講座受講者30人(青梅市15人、杉並区15人)×講座回数6回=180人
(4) 実施内容(実績値等)	講座は2年を1期として実施し、平成25年度は第6期の2年目として実施。 講座内容は、下刈り、間伐、道づくり、枝打ち、植栽等。
(5) 事業経費(決算額)	決算額793,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人 青梅林業研究グループ 参加人数:毎回10人程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図ることを目的に講座を開催している。講座の指導者には、森林施業に関する専門的な知識、技術が必要であることから、経験も豊富であり、他の団体に対しても指導を行っているNPO法人青梅林業研究グループに委託している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:講座内容の決定、資材の準備、当日の実技指導 等 行政側:講座受講者への連絡、会場確保、講座内容の調整 等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 便利な生活のなかで、野外活動で火を起こす事もできない、また自分が飲んでいる水がどこの河川から引いてきているのかわからない状況の中で、身近な里山を手入れする森林作業体験を通じ、「人と森」とのかかわりについて学びながら、保育保全作業としてもすすんだ。</p>			
<p>行政側 森林施業に対する専門的な知識、技術があり、また森林ボランティア育成講座以外にも多くの場で指導を行っている青梅林業研究グループは委託先としてふさわしい。受講者からも丁寧、親切的な指導に対して感謝する事が多くある。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 森林の恵みを享受していることを再認識し、その重要性を個人から団体へと波及し、地域社会の枠組みの中に位置付けられよう行政としての大所高所からの指導をさらにお願ひしたい。また、公益性ある森林の保育管理は、都市住民にとって大切な生命線であり、環境意識の高い行政体をさらに巻き込んだ運動へ繋げていただきたい。</p>			
<p>行政側 講座受講者を中心にボランティア団体「森守会」が活動しているが、さらに多くの方々に加入していただくことが求められる。また、継続した活動とするために、現在は比較的高齢の方に偏っている講座受講者の年齢分布をいかに広げるかが課題となる。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者クラブ健康づくりモデル事業事務	担当課	高齢介護課 包括支援係
------	--------------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年9月から12月 4か月間 場所:市内の自治会館
2継続事業	
(2) 事業の目的	地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証するための健康づくりモデル事業を実施することにより、自発的な介護予防に資する組織の育成・支援を行うとともに地域における介護予防事業を普及推進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	上記(2)事業の目的に同じ
(4) 実施内容(実績値等)	1. ウォーキング等介護予防の効果があると認められる事業の実施 2. 事業の実施に伴う予防効果の検証 3. 検証結果の広報活動等
(5) 事業経費(決算額)	平成25年度支出済額 311,467円委託料(その他委託料)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:高齢者クラブ(3か所) 参加人数:延べ 123人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:平成18年4月介護保険法が改正され、介護予防の推進を図るため	団体からの提案:なし
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:会員への周知、会場準備 行政側:ウォーキング教室の実施。ウォーキング前後の運動機能測定(握力、開眼片足立時間、10m歩行速度)

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 地域の高齢者が自ら健康づくり活動に参加し、その予防効果を検証される。また、自発的な介護予防に資する組織が育成され、地域における介護予防事業が普及促進される。</p>			
<p>行政側 健康づくりの意識、体力、高齢者クラブの様子など地域の情報が得られ、事業の企画、実施の参考となる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 高齢者クラブの加入者があまり増えない。特に前期高齢者が少ない。 事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続して行いたい。</p>			
<p>行政側 介護予防が必要な前期高齢者についても対象にしたい。 事業終了後も高齢者クラブとして体力測定の実施を継続するように働きかけを行いたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	認知症サポーター養成研修事業	担当課	高齢介護課 包括支援係
------	----------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年4月から3月 場所:利用を希望する団体・グループ等が確保した会場
2継続事業	
(2) 事業の目的	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	サポーター数 延べ272人
(4) 実施内容(実績値等)	1. 認知症の基礎知識(認知症とは何か、認知症の症状とは)、早期診断・治療の重要性、権利擁護等 2. 認知症の人への対応、家族への支援、サポーターとしてできること等
(5) 事業経費(決算額)	平成25年度支出済額 25,000円需用費(消耗品費)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:市民の地域住民、職域、学校、広域の団体・企業等の従事者等 参加人数:延べ 272人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:	平成18年7月厚生労働省老健局長通知により、本事業の推進を図るため。 団体からの提案:参加団体の年齢層により、研修内容を変えて欲しい。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:利用を希望する団体・グループ等は、申込および会場の確保や準備、機材の用意等を行う。 行政側:キャラバン・メイト講師派遣

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側:認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくり。			
行政側:今後も認知症サポーターが増えるよう呼びかけていく。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側:特になし			
行政側:今後も認知症サポーターが増えるよう、小・中学校、総合高校、多摩高校に呼びかけていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	介護サービス相談員事務	担当課	高齢介護課 包括支援係
------	-------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年4月から3月 原則として毎週水曜日実施 場所:介護保険施設等または居宅
2継続事業	
(2) 事業の目的	介護保険施設等または居宅を訪問し、介護サービスを利用する者等の話を聞き、相談に応じる等の活動を行う相談員を派遣することにより、サービスの実態を把握し、利用者と事業者の橋渡しをしながら、問題の改善や介護サービスの質的向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	延べ159回 489人
(4) 実施内容(実績値等)	1. 介護保険の利用者および家族等からの相談等に応じるため介護保険施設等および居宅を訪問すること。 2. サービス提供事業者等への働き掛けをすること等
(5) 事業経費(決算額)	平成25年度支出済額 1,296,400円報酬(非常勤職員報酬)20,680円旅費(費用弁償)147,000円負担金、補助および交付金(負担金)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:一般市民公募 参加人数:5人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:平成12年4月介護保険法が施行され、介護サービス適正実施指導事業の実施を図るため。	団体からの提案:なし
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:介護保険施設等または居宅を訪問し、介護保険に利用者および家族等からの相談等に応じる。 行政側:介護サービス相談員が、相談等に応じた内容について、困難事例等施設やケアマネジャーに対し対応報告することにより、解決する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側:介護保険施設等においては、サービス利用者の不安、不満、疑問等にきめ細かく対応することで、苦情に至る事態を未然に防止するための働きかけをサービス提供事業者へ行うことができる。また、サービス利用者とサービス提供事業者へ橋渡しを行っていくことにより、サービスの改善が図られ、サービスの質の向上・適正化に貢献することができる。</p> <p>居宅では、サービス利用者の孤立や不安の解消を図ったり、適切な情報提供を行うことでサービスの適正な利用につなげることができる等</p>			
<p>行政側:介護サービス相談員について周知するとともに、特に居宅訪問を増やせるよう、強化していきたい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:介護相談員の研修は、年1回現任研修がある。それ以外に市職員による、介護保険全般、介護保険料、関連機関(後期高齢者医療制度、国民健康保険全般、国民健康保険税、生活保護法等)についても行っていきたい。</p>			
<p>行政側:介護サービス相談員のスキルアップ、共有すべき事項もあるため、相談員、事務局、関連機関との面談等も必要に応じて行っていきたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	高齢者虐待防止ネットワーク連絡会事務	担当課	高齢介護課 包括支援係
------	--------------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成18年8月から年2回開催 場所:青梅市役所会議室、青梅市福祉センター集会室
2継続事業	
(2) 事業の目的	養護者による高齢者虐待の防止、養護者による高齢者虐待を受けた高齢者の保護および養護者に対する支援を行うために、本市における関係機関、民間団体等との連携協力体制を整備する。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	あり。高齢者虐待に関する全体的な構想や対応について協議や相談ができ、今まで課題が実現化する基盤ができた。
(4) 実施内容(実績値等)	1高齢者虐待に関する情報交換ならびに関係機関の連携および協力の推進に関すること。2高齢者虐待に関する広報・啓発活動に関すること。3養護者に対する支援に関すること。4高齢者虐待に関する地域包括支援センターへの支援・助言等に関すること等
(5) 事業経費(決算額)	委員報償金 23,000円(予算額23,000円)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:社会福祉協議会の代表1人、民生児童委員会合同協議会の代表2人、東京弁護士会の代表1人、ケアマネジャー連絡会の代表1人、人権擁護委員の代表1人 参加人数:6人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ:平成18年4月「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され地域において高齢者虐待ネットワークを構築するため	団体からの提案:
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:委員は、所属する団体の専門的な見地から地域包括支援センターへ対して、高齢者虐待に関する適切な支援・助言等を行う。 行政側:体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側: ネットワークの構築により、早期に介入や対応ができたことで高齢者の生命の保持、安全を確保できた。			
行政側 ①委員の専門的な見地から意見、助言をしてもらったことで、予防、対応、権利擁護が適切に行えた。ケア会議の開催時出席②緊急一時保護、やむを得ない措置による入所、市長申立てによる成年後見制度をおこなった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 : 虐待の早期発見、通報の周知。見守りの強化。成年後見制度の周知。			
行政側 : 虐待の早期発見、虐待通報の徹底化により、早期に関係機関が介入する体制を強化でき、被虐待者、養護者の支援に早く対応する。 ①緊急一時保護先の確保 ②高齢者虐待に関する市民への啓蒙活動			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市障がい者交流バスハイク	担当課	障がい者福祉課庶務係
------	----------------	-----	------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年3月21日 場所:東京スカイツリー、上野動物園
1単年度事業	
(2) 事業の目的	バスハイクを通して障害者やその家族の交流を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市障害者団体連合会との協働事業とすることにより、よりよい見学先を選定することで、多くの障害者の参加を得る。
(4) 実施内容(実績値等)	大型バス2台を借り上げ、東京スカイツリーおよび上野動物園を見学した。定員と同数の80人の参加を得た。
(5) 事業経費(決算額)	参加者負担額:106,766円(入場料、保険代、車中お茶代等) 青梅市負担額:238,300円(大型貸切観光バス代(2台分)、有料道路代、駐車場代)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市障害者団体連合会 参加人数:1名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	障がい者交流バスハイクの実施にあたっては、見学先の選定および参加の募集について、従前から青梅市障害者団体連合会の協力を得ていた。このため、平成25年度からは協定を締結し、協働事業として位置付けた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:行程案の作成、申込用紙の作成、参加者の受付、しおりの作成、当日の運営等 行政側:バスの借上げ、広報おうめへの記事掲載、参加者の受付、当日の運営、清算業務等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側:他障害の方や家族で交流し合えること目的としたバスハイクの行事は、毎年とても楽しみにしております。今回も市の補助を頂くことで、実施ができ、準備から当日の進行を協働で行うことで、よりスムーズな運営をすることが出来ました。</p>			
<p>行政側:限られた予算の中で、青梅市障害者団体連合会に見学先の選定および行程案を作成いただいたことにより、多くの参加者を得ることができた。また、当日の運営にも携わっていただいたことにより、事故等もなく円滑に実施することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側:行程中に体調が悪くなった方がいましたが、連絡先として携帯電話の番号を聞いていなかったため、次回の申し込み時には、当日繋がる連絡先を記入するようにしたい。 次回は身体の障害をお持ちの方のバスハイクなので、スカイツリーの見学を希望するのなら、6ヶ月前から予約が取れるので、早めに準備をしたほうが良いと思いました。</p>			
<p>行政側:定員80人を超える124人から申込みがあったことから、障害者団体連合会の立会のもと抽選を行い参加者を決定したが、後日、落選者から抽選を行う場合のであれば、公開抽選としていただきたかった旨の申出があった。今後の事業の実施にあたっては、定員を超える申込みがあった場合には、公開抽選を行うことを視野に入れたスケジュールを立てることとしたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	お助けマン養成講座開催	担当課	障がい者福祉課相談支援係
------	-------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成25年11月19日(火)、平成26年2月13日(木) 場所：市役所2階会議室、福祉センター2階集会室
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅市地域自立支援協議会の「障害者への理解と啓発部会」が、障害者に手を貸したいと思っても方法がわからずにいる方々、助けを求めたくても求められない方々の意識の掘り起しをすることを目的に「お助けマン養成講座」を実施しました。コンセプトは「輝くブルーハートキャンペーン」とし、市民のハートを開く、青梅の心＝ブルーハートにちなみ、付けられました。青梅市社会福祉協議会や市内の障害者支援施設の協力のもと、年2回実施し、1回の定員を30名とする。講座修了者には特製キーホルダーを渡し、それが目印となって、障害者の方が声を掛けやすいように配慮している。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間60人以上を養成する。
(4) 実施内容(実績値等)	第1回 21名 第2回 24名
(5) 事業経費(決算額)	キーホルダー購入経費 27,060円、講座開催通知郵便料 1,800円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市障害者地域自立支援協議会、青梅市社会福祉協議会(協力：友愛学園成人部、東京青梅病院、青梅市自立センター) 参加人数：第1回 3名 第2回 2名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市は施設や病院が非常に多い地域であり、どの施設等も歴史が古い。それは専門性の高い熟練した福祉職が多いということであり、それは青梅市の地域資源であると考え、その資源活用を頼みとして企画した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側 企画立案、講座講師、体験講師、キーホルダー購入準備等 行政側：講座開催場所確保、開催通知送付、広報周知、キーホルダープレゼンター等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側: キャンペーンバッチのデザインを募集し、採用された絵は当事者の方のものでした。その方の利用している施設が友愛学園であり、その絵のバッチへのデザイン化を友愛学園が担当し、社協がバッチの手配と支払を担当する。講座の講師は、身体障害は自立センター、知的障害は友愛学園、精神障害は東京青梅病院から、車椅子等の体験については社協の協力(車椅子等と指導員)を得て、司会はコーディネーターは協議会委員が担当し講座を実施することが出来た。また、チラシ等の作成、募集作業や当日の会場設営等は市側が担う。協働の結果、スムーズに実施することが出来た。</p>			
<p>行政側 協働で開催することで、市民からの意見が反映でき、スムーズに事業が実施できた。また、関係者からの声かけにより、多くの市民に参加していただき、障害者の理解の推進に寄与した。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側: キャンペーンとして広がる為には、企業等に協力を求めて行く。例えば、地域のスーパーマーケットの従業員が講座に参加頂くなど。</p>			
<p>行政側 今後は、民生児童委員等にも参加していただき、より多くの方々に障害者の理解の推進に努める。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市中級手話講習会	担当課	障がい者福祉課認定サービス係
------	------------	-----	----------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年5月9日から平成26年2月20日 場所:青梅市福祉センター集会室
2継続事業	
(2) 事業の目的	1 一般市民に「聴覚障害者」の理解と啓発を促し、聴覚障害者の社会参加促進に寄与すること 2 日常会話の技術を習得すると共に、ろうあ運動の歴史、聴覚障害者の活動について学ぶ 3 手話を学ぶことによって、福祉に関する関心を高め、地域福祉を推進すること
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	参加人員 30名
(4) 実施内容(実績値等)	聴覚障害者の生活に関わりの深い7つのテーマ(社会生活、家庭生活、職業生活、教育、聴覚障害、福祉制度および手話通訳)ごとに、手話表現・会話・読み取りの練習および「みんなで考えよう」(障害者問題の問題点を明確にするため、複数人で議論して理解を深めるもの)を通じ、学習ポイントおよび理論
(5) 事業経費(決算額)	講師報奨金 150,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市聴覚障害者協会 参加人数:30名
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市聴覚障害者の事業として実施されていたが、以前から協力依頼があったため
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:青梅市聴覚障害者協会が講師・ろうアシスタントを担い、手話サークルが健聴アシスタントを担う 行政側:講習会会場の確保、講師報奨金の助成、講習会資料のコピー依頼

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 「広報おうめ」に「共催青梅市」と掲載したことで、一般市民に手話や聴覚障害者への理解を広めるという 目的に信頼感があり、他地域の講習会より定数が多い。障がい者福祉課との相談等でコミュニケーションを図ることができ、行政とのパイプを作ることができた。			
行政側 聴覚障害者への理解の深まり、地域福祉推進への寄与			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 受講生の名簿について個人情報保護の問題があり、今後対応を話し合っていきたい。「手話は言語である」ということへの理解を広めるために全国的に運動を展開しており、講習会の在り方についても見直していかなければならない			
行政側 中級手話講習会修了者の上級手話講習会への移行			

協働事業評価シート(表)

事業名称	第44回おうめ健康まつり ※「市民健康の集い」から「おうめ健康まつり」へ名称変更	担当課	健康課 健康推進係
------	---	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年5月19日(日) 場所:青梅市役所(1階ロビー、2階会議室等)
2継続事業	
(2) 事業の目的	健康に関する正しい知識や情報の提供など、健康づくりの普及啓発の機会とし、健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	家族ぐるみの健康づくりをテーマに、健康・歯科・薬・ペットなどの相談、体力測定、ヘルスチェック、生活習慣病の予防、栄養、転倒予防教室、親子で学ぶ応急救護、親子バランス体操教室等や医師会、歯科医師会、薬剤師会による講演会を実施した。
(4) 実施内容(実績値等)	おうめ健康まつりの運営(相談、PR、測定など)
(5) 事業経費(決算額)	有 医師等報償金 373,920円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市三師会、東京都獣医師会多摩西支部、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩、青梅市接骨師会 参加人数:39人(青梅市三師会18人、東京都獣医師会多摩西支部2人、薬物乱用防止推進青梅・奥多摩7人、青梅市接骨師会12人)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	昭和45年から実施しており、理由は不明
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:医師等の立場から専門知識を提供する。 行政側:健康に関する情報を提供し普及啓発を図る。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側 来場者に対し専門的(医師等)な立場から情報提供ができた。さらに、市民の健康意識の高まりを感じることができた。			
行政側 医師など専門的知識を有する者と協働することにより、来場者(市民)へより多くの情報を提供できた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 来場者の健康状態を把握し分析を行い、更なる健康づくりに向けて検討していきたい。			
行政側 より多くの来場者を確保するために、医師など専門的知識を有する者と協働し、毎年度、事業内容の見直しを図る。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市子ども・子育て会議事業	担当課	子育て推進課 子育て推進係
------	----------------	-----	------------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:会議 平成25年8月27日 平成25年10月11日 平成26年2月18日 場所:市役所会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	(仮称)青梅市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う諮問、答申を行う。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市子ども・子育て会議開催3回
(4) 実施内容(実績値等)	(仮称)青梅市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う各案件の検討
(5) 事業経費(決算額)	494,887円(委託料1,974,000円含めず)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市子ども・子育て会議 参加人数:12人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	こども・子育て支援法の施行に伴い会議を設置。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:有識者、市民、関連団体の代表が会議の委員として参加し、協議、提言を行う。 行政側:会議の事務局となり、提言を参考として事業計画を策定する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 本市の人口減少や子育て家庭の現状について、互いに理解を深めることができ、子ども・子育て支援事業計画策定に向けて議論することができた。</p>			
<p>行政側 (仮称) 青梅市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて現在の状況や課題等について、お互い共通の認識を持ち、検討、協議することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 本市の人口減少や子育て家庭の現状についてさらに理解を深め、人口増加策の一環として子ども・子育て支援事業計画を策定するよう互いに努力することが求められる。</p>			
<p>行政側 今後の各子育て支援事業について、更なる検討協議を重ね、(仮称) 青梅市子ども・子育て支援事業計画を策定していく必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	永山ふれあいセンター「キッズぱーく」管理・運営事業	担当課	子ども家庭支援課支援係
------	---------------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週火曜日～土曜日 午前10時～午後3時（年末年始を除く） 場所： 永山ふれあいセンター内
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅市永山ふれあいセンター「キッズぱーく」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。(利用者数 4, 047人)
(5) 事業経費(決算額)	2,803,200円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人 青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	永山ふれあいセンターを子育てスペースとして場所の提供を行っていたが、スタッフを配置してひろば事業として実施することとなり、市内NPO法人はあとへの事業委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： NPO団体が「キッズぱーく」の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 子育てに関する様々な悩み、相談、親子のスキンシップなどの交流の中、他の親子、スタッフの関わりの中で地域の情報などを的確に把握して、お母さんたちの不安などを取り除くように心がける。親子でゆったり、ゆったりとできる空間の場を提供することによりお母さんたちに喜ばれている。従来、行っていた月1回のお楽しみ会を月4回実施することなどに心がけ、25年度の来館者の伸びに大きくつながる事になった。			
行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施したことにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 今後は、アンケートなどを取りながら、より皆で楽しめる、来館者が多くなるようなイベントを計画していきたい。エコおもちゃ作りなども発信していきたい。催し物などについては、限られた予算の中で難しくなっている状況です。			
行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等の充実および子育て関連部署・機関との連携に心がける。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子育てひろばC型事業(にこにこ広場)	担当課	子ども家庭支援課支援係
------	--------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週水、木、金曜日 午前11時～午後4時（年末年始を除く） 場所： 東青梅1-7-7 青梅こども未来館
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育てに関する専門的な知識を有するスタッフを配置することにより、親子同士の交流の仲立ち、子育て相談等に関する相談、援助や地域の子育て関連情報の提供をすることにより、子育てへの不安感等の軽減が図られる。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅こども未来館「にこにこ広場」において、NPO法人への委託により、利用者への安全配慮および保護者と乳幼児への子育てサポートおよび子どもの遊び場の提供を行った。(利用者数 2,724人)
(5) 事業経費(決算額)	1,557,180円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 特定非営利活動法人 青梅こども未来 参加人数： 開館中は、ローテーションにより常時2名配置
(3) 協働の提案者	1 行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	公募により、平成24年10月から市内NPO法人こども未来に事業委託し、ひろば事業C型として実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： NPO団体が「にこにこ広場」の管理・運営を実施する。 行政側： 基本管理総括、周知PR、相談業務関係をはじめとして子育て関連部署・機関との連携。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 1年が経過し、1歳児を持つ親子が立ち寄れる居場所になっている。市民センター開催の広場・健康センター健診後の親子の利用が増えてきている。発育・発達・子育て全般に不安を感じている利用者には、行政の関連機関(健康センター・子ども家庭部)に隣接している立地から、専門機関に繋げる案内がしやすくなっている。行政協働の子育て講演会や事業の宣伝が来館者に直接出来た。</p>			
<p>行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等を実施することにより、子育てに対する不安の軽減や親子同士の交流の機会を増やすことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 ・広場でのプチイベントや行事等の案内を、青梅こども未来館の外部分の掲示板を用いてさらに周知し、初来館者が安心して子どもと向き合える環境づくりのための情報提供・発信に努めていく。 ・昨今の消費税、電気料の値上げにより法人の光熱費の施設管理額が増加している。また、広場を開設している青梅こども未来館には、これまで買い揃えたグッド・トイや選りすぐりの絵本を常置しているが、利用者数が多いため消耗が激しく補充が必要になっているので、光熱費や備品費等の捻出方法を新たに考える必要がある。</p>			
<p>行政側 乳幼児の親子の触れ合いや交流の場を提供、子育てに関する情報提供や相談事業等の充実および子育て関連部署・機関との連携に心がける。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市ファミリー・サポート・センター事業	担当課	子ども家庭支援課支援係
------	----------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 通年(事務局は平日開設) 場所： 利用会員の要望する場所(事務局は、東青梅センタービル3階)
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	育児の援助を受けたい家庭に対し、育児の援助を行いたい有償ボランティアが活動を行うことにより、地域で支え合える子育て支援となる。
(4) 実施内容(実績値等)	子育て支援を求める者(利用会員)と子育てを支援する(提供会員)による会員制の有償ボランティア活動。東青梅センタービルにNPO法人への委託方式で事務局を設け、会員の募集、講習、コーディネートを行う。 (会員数 713人 利用件数 2,026件)
(5) 事業経費(決算額)	6,291,186円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： NPO法人青梅ファミリーサポートはあと 参加人数： 2名(事務局に係る人数)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育て支援政策として、運営等実績のあるNPO法人との協働が望ましいと考え、当該事業にふさわしい団体であったため。なお、当該事業は、市民による有償ボランティア活動であり、その意味では、事業そのものが会員(協働)事業である。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： (会員)相互援助活動・有償ボランティア活動としての事業実施(NPO法人)事務局としての運営管理、会員間のコーディネート。 行政側： 体制づくりの構築、個々の事例について適切な対応を図っていくことを支援する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 センター事業の中では、担い切れない問題の多い家庭が増加してきている中、対応の難しさが多い、子育ての出来る範囲内での支援を行い喜ばれている。地域交流の催しでは、センター事業の役割説明などを行いながらの交流にセンターが身近に感じられるなどの声も聞かれる。</p>			
<p>行政側 事業実施により、子育て家庭への支援の充実が図られた。また、事業実施実績のあるNPO法人に事業委託することによりスムーズな運営ができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 養成講座をより充実させ提供会員の増員を図る。会員の交流会の充実を図り、多数の出席者を募る。予算が切り詰められる一方、会員向けに魅力ある催しがしたい。また、講師料他経費の捻出が難しく苦慮している。</p>			
<p>行政側 子育て家庭の支援の充実を図るために、今後も会員の拡大、制度・利用者増加に向けた周知方法の検討が必要である。 個々の事例について適切な対応を図っていけるよう支援に努めていく。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子どもふれあいフェスタ2013	担当課	子ども家庭支援課支援係
------	-----------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 平成25年11月3日 場所： 永山ふれあいセンター
1単年度事業	
(2) 事業の目的	子育て家庭の援助および地域の支え合いによる子育て機能の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	子育て支援、子どもたちの健全育成および異世代交流の場となる。
(4) 実施内容(実績値等)	手作りおもちゃ、赤ちゃんコーナー、遊びコーナー、パフォーマンスステージ、ツリークルージング、子どもの模擬店、森の工作、世界のあそびコーナーを設け(入場者数 1, 212人)
(5) 事業経費(決算額)	400, 000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:子どもふれあいフェスタ2013実行委員会(NPO法人青梅ファミリーサポートはあと、NPO法人青梅こども未来、NPO法人子どもと文化の子ども劇場西多摩の3団体) 参加人数:実行委員参加人数 20名(当日は、高校生有志の協力)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	市内子育て関連NPO法人を中心に子育て中の親子と小・中学生等を対象に子育てを支援し、ともに楽しめるフェスティバルを実施する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 市内NPO法人を中心に実行委員会形式にて企画・運営をする。 行政側: 補助金の交付とともに、企画段階からオブザーバーとして実行委員会に加わっている。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 会場利用や備品の借用と事業告知のための宣伝が充実した。また、行政担当者とも内容に関して意見を交わすことが出来、内容充実につながっている。実行委員会に、子育て支援課 社会教育課 市民活動推進課が参加していることが大切。</p>			
<p>行政側 子育て支援事業(親の交流や親子のふれあい、情報交換、レクリエーション、PRなど)を推進することができた。市民の豊かで自由な発想による企画立案ができた。市民のマンパワーを活用することができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 NPO3団体の協働と行政との協働という側面をもっている。行政担当者より前向きな論議が対等に出来たらと思います。また、次代へつなげて行くためのNPO団体の世代交を考えて行くことが大切です。</p>			
<p>行政側 子どもたちや子育て親子の交流だけにとどまらず、異世代間交流の拡大を図っていくとともに、地域の伝統の伝承も考慮した事業実施の検討が必要と考える。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市民センター子育て支援事業	担当課	子ども家庭支援課支援係
------	-----------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 毎週月曜日、火曜日、金曜日、 第4土曜日 場所： 青梅市民センター内 キッズルーム
2 継続事業	
(2) 事業の目的	子育てと子どもの健やかな成長を支援するとともに児童福祉の増進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児親子のゆったりのんびりした遊びと情報交換の居場所作り ・ 学童(異年齢)遊びを通しての交流と居場所づくり
(4) 実施内容(実績値等)	NPO法人青梅ファミリーサポートはーと、NPO法人子ども未来、NPO法人子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩の3団体との協働で子どもたちの遊びの場、親子の憩いと情報交換のための居場所の提供(利用者数 2, 266人)
(5) 事業経費(決算額)	1, 041, 859円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4. 事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： すきっぷ実行委員会 参加人数： ローテーションにより開館中、常時2名配置(土曜日のみ3名配置)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	それぞれの団体の持つ特色を生かしての子育て支援事業を展開する。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 乳幼児親子・児童の遊びと憩いの場・情報交換等の居場所づくり 行政側： 実施会場の提供・事業の広報・関係機関との調整

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	4	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 ・利用者がスタッフや利用者同士の関わりの中で地域や子育てに関して必要な情報を得ることが出来、子育ての安心に繋がっている。 ・小学生たちも家庭や学校とは違った空間を楽しんで過ごしている。 ・3団体が関わっていることで多様なプログラムの提供ができています。			
行政側 NPO団体の持つ得意分野を生かした子育て支援事業を行うことができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 ・短時間の広場なので利用する親子や小学生が気持ちよく過ごせる空間作りが出来るよう心掛ける。 ・子どもや親に定着してきつつあるのでスペースの拡大や日数を増やすなど検討していきたい。 ・企画行事の日が近隣の小学校行事と重ならないように日程を考慮する。 ・部屋のブラインドが壊れ、夏場は日差しを遮る物が無い状態なので、改善をして頂きたい。 ・元気な子ども達の声の反響が他の市民センターの会議室よりも大きく、スタッフの中には頭痛を訴える者も出てきている。防音できる壁紙を貼る等、部屋の環境改善を考えて頂きたい。			
行政側 今後も乳幼児の親子や小学生の安心・安全の居場所作りの場を提供できるよう心がける。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	子育てネット事業	担当課	子ども家庭支援課支援係
------	-----------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 年間を通じて、子育て関連ホームページの作成及び運営を行う。 場所： 事務局 勝沼3-78 KTホール2F
2継続事業	
(2) 事業の目的	市の子育て支援サービスや製作および市内の子育て関連NPO法人や子育てサークルなどの様々な子育て関連情報を一目でわかりやすく伝えるため、子育て関連ホームページを開設し、児童および子育て家庭の福祉向上を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市の子育て支援サービスや子育てに関連情報をホームページを通じ、広く分かりやすく提供し子育て支援をする。
(4) 実施内容(実績値等)	子育てに特化したホームページの開設および運営(年間アクセス数 411,393件)
(5) 事業経費(決算額)	1,659,270円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:特定非営利活動法人 子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩 参加人数:HP担当スタッフ15名+記者スタッフのべ40名程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	行政による一方的な情報だけでなく、市民の目線を生かした行政情報以外の様々な情報を楽しく伝えるため、NPO法人へ委託を行うこととした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： ホームページの開設・運営、情報収集、関連団体と連携等を実施する。 行政側： ホームページの基本管理、市の情報提供等

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 協働事業によるのホームページなので、行政情報にとどまらず、子育てスポットやお店紹介、お褒めの絵本、おばあちゃんの料理レシピなど、子育て中の方に親しみやすいものになっている。</p>			
<p>行政側 NPO法人への委託により、市からの一方的な情報提供だけでなく、市民が求めている様々な情報を楽しく伝えることができた。また、経費面においても効果があった。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 担当者と内容充実に関しての話し合いが出来ているがHPなので、より見やすく、分かりやすい情報提供が課題である。</p>			
<p>行政側 ホームページの充実、特集記事等の充実や掲示板などによる利用者の参加増加につながるよう取り組んでいく。 受託者側と「子育てねっと」を活用した子育てサークル等のネットワークの育成が図れるよう協議していく必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市次世代育成支援地域協議会事業	担当課	子ども家庭支援課支援係
------	-------------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間： 協議会（平成25年7月19日、平成26年1月30日） 部会（8月29日、10月8日、11月22日、12月16日、1日0日） 場所： 市役所会議室
2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市次世代育成支援地域行動計画管理のための協議
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市次世代育成支援地域行動計画の進ちよく状況をまとめるため会議を2回開催。また、子どもの居場所づくり等検討部会を5回開催。
(4) 実施内容(実績値等)	平成25年度における行動計画実施状況の検討(2回)、子どもの居場所づくりの検討(5回)
(5) 事業経費(決算額)	441,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 青梅市次世代育成支援地域協議会 参加人数： 12人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	関連団体代表、有識者や市民が協議会の委員となり、次世代育成支援地域行動計画の進ちよく状況を検証するため協働する。また、部会をつくり、子どもの居場所づくりの検討も行う。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：関連団体代表、有識者、公募市民が協議会の委員として参加し、協議を行う。 行政側：協議会事務局となり、協議会の意見を参考に施策を実施する。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 次世代育成支援地域行動計画の進捗状況について、市民の目線で検討、評価を行うことが出来た。また、子どもの居場所づくりについても、検討を行った。</p>			
<p>行政側 行動計画の実施状況の検証や課題等について、市民とともに協議することが出来た。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 協議会の設置は平成26年度末までであり、その後の行動計画の進捗状況検証等は、子ども・子育て会議に移される予定である。</p>			
<p>行政側 行動計画の実施状況の検証をもとに、今後の事業を進める必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市親子ふれあい綱引き大会	担当課	子ども家庭支援課
------	----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年2月2日(日) 場所:総合体育館
2継続事業	
(2) 事業の目的	青少年が地域活動に参加する機会や場を提供し、綱引き大会に親子で参加することで、親子のふれあい、異年齢交流や地域交流を図りながら、地域社会で青少年の健全育成を図ることを目的としている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	幼稚園・保育園児、小学生低学年、小学生高学年、中学生男子、中学生女子、ふれあい、一般男子、一般女子の全8部門、合計100程度の出場チームにより「親子ふれあい綱引き大会」を開催する。
(4) 実施内容(実績値等)	親子ふれあい綱引き大会実行委員会の開催、会場設営等開催準備、総務・進行・受付・接待・放送・選手・模擬店・会場・賞品係等による当日の大会運営を行う。
(5) 事業経費(決算額)	事業実施委託料 570,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会 参加人数:99人(当該団体のほか青梅市スポーツ推進委員協議会26人、日本綱引連盟公式審判員1人ほか総勢約130人の協力があった。)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案:平成9年頃から、青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会として、全体の統一事業開催について検討が始められ、平成15年1月19日に「第1回青梅市親子ふれあい綱引き大会」が総合体育館で開催された。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:実行委員会を組織し、大会実施のための準備をすること。大会前日の準備や当日の運営をすること。 行政側:事務局として、大会の周知、出場チームの募集等の広報、実行委員会や組み合わせ抽選会等の準備をすること。大会に必要な物品や消耗品の調達をすること。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側： 行政側が、実行委員会事務局を担当し、予算の管理、広報やホームページなどによる出場チームの募集や受付事務、実行委員会・出場チーム対戦組み合わせ抽選会等の会議の開催事務、大会に使用する物品や各種資材の調達等が円滑に行われた。また、一方で、当日の競技や模擬店等の大会運営には、スポーツ推進委員や綱引き連盟公式審判員、経験や知識のある地区委員があたり、スムーズな運営を行うことができた。</p>			
<p>行政側： 大会前日の会場設営や当日の千数百人におよぶ出場選手、応援者等大会参加者の整理、誘導は、行政側スタッフだけでなく、役員や実行委員の協力を得て、事故なく行うことができた。 また、綱引き競技専用レーンマットの敷設や競技の審判、大会の進行などについては、スポーツ推進委員、綱引連盟公式審判員等専門のノウハウを持った市民の協力により、スムーズに行うことができた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側： ゴミの削減 実行委員・スタッフ・行政はもとより、参加者にも、お椀・箸の持参を促し、ゴミの削減に努めているが、容器等を持参しないスタッフ等への提供や持ち込みの使い捨て容器のごみ等まだまだ多くのごみが捨てられている。今後、さらに周知を徹底し、ゴミ削減をめざして行きたい！</p>			
<p>行政側： 広く市民に事業の周知を図るとともに参加者の拡大を図って行きたい。また、大会を通じて、あいさつの励行やごみの減量等、単なるイベントにとどまらず、大会の質そのものの向上を図って行きたい。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅駅周辺景観まちづくり	担当課	都市計画課景観係
------	--------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:6/13、7/11、9/20、10/8、11/6(茨城県桜川市視察)、2/6、3/4 場所:青梅市民会館、茨城県桜川市(視察)、住宅修景現地(仲町、住江町)
1単年度事業	
(2) 事業の目的	青梅駅周辺地区景観形成基本計画の目標とする「里山と川に包まれ 歴史が息づき 文化の薫る魅力あるまち」の実現に向けて、調査、研究および地区内住民等の意向調整等を行い、景観まちづくりの推進を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅駅周辺景観形成地区内の市民を中心に、景観形成地区の計画の実施について協働で作業および意見交換が出来た。
(4) 実施内容(実績値等)	青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知活動等、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認等、景観形成重要資源修景についての研修への参加、景観まちづくりについての講演会の開催等
(5) 事業経費(決算額)	景観形成助成金(景観まちづくり市民団体への助成)30,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅宿の景観を育む会(会員15人) 参加人数:各回8~12名程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	「景観形成地区」の指定や「景観形成計画・基準」などを協議していくために地区内の自治会や商店街の代表者で組織した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	3. その他 その他の場合具体的に(計画の意思形成過程)
(6) 役割分担	市民側:青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知活動、景観形成重要資源の指定に向けて所有者の意向確認、住宅修景に向けて所有者への説明等を行う。 行政側:団体協議の場の提供、懸案事項等を報告、相談。

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 活動地域の商店会長や自治会長が参加しているので、道路改修工事などの市の事業について協力・理解が早く、推進に期待でき、まちづくりに積極的に取り組むことができる。また、女性2名も参加しているので、男性・女性のそれぞれの視点から意見が出せる効果がある。</p>			
<p>行政側 青梅駅周辺地区景観形成における行為の届出についての周知を進めた。また、景観先進地への視察や景観まちづくりについての講演会を実施し、景観まちづくりへの取組に対して共通認識を深めた。さらに、新たな景観形成重要資源指定に向け、協議が進んでいる。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 建物の保存について、所有者自身の理解・協力は得られるが、世代が代わることを考えた際に、後継者の理解が得られない事例が多い。また、建物を保存していくのに必要な改修について、市の景観形成助成金の予算がないため、翌年度以降まで工事ができない事例がある。</p>			
<p>行政側 各町内の会員との連携を深めると同時に、市民団体の主体性をより高めるための体制作りを進めていく必要がある。また、活動の成果が目に見える形で残るように進める必要がある。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	青梅市住宅なんでも相談会	担当課	住宅課 住宅政策係
------	--------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 平成25年11月16日(土) 午前10時～午後4時 場所: 市役所2階 喫茶コーナー
1単年度事業	
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談について適切な助言を行うとともに、住宅に関する市民相談窓口の構築に資することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	無料の住宅相談会の開催
(4) 実施内容(実績値等)	相談件数 8件
(5) 事業経費(決算額)	0円(ある物で対応)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:青梅市住宅施策推進協議会(民間の不動産事業者や建築士等で構成される任意団体) 参加人数:13人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランに住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、相談会を開催するにあたり、相談員をお願いすることとなった。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:相談会当日の相談員 行政側:市民への周知、広報活動、会場の確保・設営、申込み受付、相談会当日の受付、結果のとりまとめ

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
相談者に対して適切な解答やアドバイスを行うことにより、相談者の悩みを解消することができた。			
行政側			
住宅に関する相談窓口の構築を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
定例的に相談会が開催されると、相談員として従事する機会が増えるため、負担も増えてしまう。			
行政側			
定例的に相談会を開催するなど、相談ができる機会をできるだけ増やしていく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	住宅相談窓口に関するネットワークの構築	担当課	住宅課 住宅政策係
------	---------------------	-----	-----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 平成25年9月～26年3月 場所: 青梅市ホームページ内「青梅市住宅総合情報」
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民の安全で安心できる快適な住まいづくりのために、住宅の新築、増改築、リフォーム、売買、賃貸等およびマンションの修繕、維持管理等に関する相談にいつでも対応できるよう、青梅市と住宅関連の民間事業者との間にネットワークを構築することを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	青梅市のホームページ内の「青梅市住宅総合情報」のページから、青梅市住宅施策推進協議会に所属する各団体のホームページへの外部リンクを設定する。
(4) 実施内容(実績値等)	平成25年9月～26年3月末日のホームページへのページビュー数 434件(情報システム課に確認) 実際に相談に至ったかどうかについては不明
(5) 事業経費(決算額)	0 円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 青梅市住宅施策推進協議会(民間の不動産事業者や建築士等で構成される任意団体) 参加人数: 一 人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市住宅マスタープランに住宅に関する相談体制の整備が掲げられており、その一環として、青梅市のホームページから、青梅市住宅施策推進協議会に所属する団体のホームページへの外部リンクを設定した。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 各団体によるホームページの作成、問い合わせや相談があった場合の対応 行政側: 青梅市ホームページ内に「青梅市住宅総合情報」のページを開設し、「住宅に関する相談窓口」から各団体のホームページへの外部リンクを設定

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側			
市が間に入ることにより、相談者が安心感を覚えると考えられる。			
行政側			
住宅に関する相談窓口の拡充を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
一部団体について、ホームページが未開設のため、外部リンクが設定できていない。			
行政側			
ホームページ未開設の団体に対し、早期の開設を促していく。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	大塚山いこいの森ボランティア	担当課	公園緑地課管理係
------	----------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期 間 : 6月および9月第1日曜日 場 所 : 大塚山いこいの森(大塚山公園隣接する土地)
2継続事業	
(2) 事業の目的	みどり豊かな環境と景観を形成し、快適な生活環境を創出するとともに市民の自然体験および学習の場として活用を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間参加人数 延べ216人
(4) 実施内容(実績値等)	この土地を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保つため、必要な管理を行うものとする。
(5) 事業経費(決算額)	消耗品費 9,439円 ・ 食糧費 29,160円 合計 38,599円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: いこいの森を育てる会(近隣5自治会・4小PTA・第8青少対) 参加人数:延べ216人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	地元からの要望により、針葉樹を伐採し、広葉樹化を行い、管理区分により地元等ボランティアにより清掃、下草刈り等を行っている。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:管理区分の清掃および下草刈り等(植栽育成に必要なこと) 行政側:管理区分の清掃、下草刈り等(植栽管理に必要なこと)および施設全体の管理

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側 この土地を市民の自然体験および学習の場として良好な状態に保つことができた。 植栽樹木が根付いて、育ちつつある。また、市立第四小学校の校外学習の場として利用されている。			
行政側 ボランティアと協働で清掃および下草刈りを行い、市の管理区分(柵外の危険箇所)については、別途草刈り危険区域への進入防止柵を実施した。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 参加人数の確保 作業道具等の不備 中心となる組織がない			
行政側 全体の施設(外柵や階段)が木製で腐食のため、修繕が必要となる。 樹木が生長しているため、枝払い鋏や鋸等の作業道具が必要となる。 樹木の剪定、間伐等を行うために、管理計画および専門業者等の作業も必要となる。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	緑地管理ボランティア	担当課	公園緑地課管理係
------	------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期 間： 毎月第3土曜日(8月を除く) 場 所： 永山公園内ボランティア管理緑地および新田山公園
2継続事業	
(2) 事業の目的	環境保全保護に努め、安全で快適な公園を市民に提供する
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間参加人数(延べ100人) ⇒ (参加人数 延べ116人) ≪平成26年2月降雪の為、中止≫
(4) 実施内容(実績値等)	萌芽更新等を目的とした間伐、下草刈および枯損木伐採等
(5) 事業経費(決算額)	講師報償金 192,000円 ・ 消耗品費 23,487円 ・ 食糧費 30,675円 保険料 13,050円 合計 259,212円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名： 緑地管理ボランティア 参加人数： 28人(登録人数)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:特になし 行政側:特になし

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
<p>市民側 伐採した切株からの萌芽更新、実生から育った幼木も多数あり、新しい森として再生していること。管理緑地内の再生をさらに広げていきたい。</p>			
<p>行政側 萌芽更新、実生からの育成は、これからの新しい森づくりとしての見本としたい。管理緑地内の再生をさらに共に広げていきたい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 会員の高齢化 会員の増員・随時会員の募集</p>			
<p>行政側 会員の高齢化による出席者減少 ⇒ 会員募集(随時)をかけて、若い世代の参加者を増加を図る。範囲を広げる場合、伐採に対して多額の予算(搬出・処分費)を必要とすること</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	学校教育ボランティア	担当課	指導室 指導係
------	------------	-----	---------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:毎年度 場所:市立小中学校
2継続事業	
(2) 事業の目的	青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域人材の活用した学校教育活動の充実
(4) 実施内容(実績値等)	学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 参加人数:市民 約400人(各学校合計)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:学校の依頼にもとづく支援 行政側:学校への活用奨励

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 様々な分野で学校の教育活動を支援することができた。			
行政側 地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
行政側			

協働事業評価シート(表)

事業名称	生涯学習フェスティバル ～釜の淵新緑祭2013～	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間:平成25年5月11日(土)、12日(日) 場所:釜の淵公園広場、釜の淵市民館、郷土博物館、市立美術館</p>
<p>2継続事業</p>
<p>(2) 事業の目的 各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験教室による学習機会の提供、および生涯学習事業の周知</p>
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等) 参加者1,999人</p>
<p>(4) 実施内容(実績値等) 出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、おはなし会、手品、竹細工展示、野点による抹茶接待など。 参加型イベント「体験教室」として、絵手紙教室、木工クラブ、カヌー教室など。</p>
<p>(5) 事業経費(決算額) 135,537円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 1.政策立案・事業企画等に参加</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名: 青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア 参加人数:87人</p>
<p>(3) 協働の提案者 1行政からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ 青梅市生涯学習推進市民会議の事務局として</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(</p>
<p>(6) 役割分担 市民側:企画運営 行政側:事務局</p>

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	3	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
<p>市民側 一日目が雨天により来場者数は想定よりも少なかったが、各団体と発表の場として生かすことができた。</p>			
<p>行政側 実行委員会形式により実施したことにより、当日の各出演団体準備・片付け等がスムーズにできた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 2回の実行委員会を開催、打合せを実施しているが、参加団体の増加に伴い出演順・出演場所の音の干渉等、詳細事項について出演団体間の綿密なすり合わせが必要である。</p>			
<p>行政側 実行委員会・新緑祭開催事前準備の多くを市職員が行っており、その部分に関して実行委員会に担っていただける環境づくりが必要であると考えます。</p>			

協働事業評価シート(表)

事業名称	家庭教育講演会	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	---------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:①平成25年 12月14日(土)、②平成26年 2月22日(土)、③平成26年 3月15日(土) 場所:①、② 中央図書館、③青梅市民センター
2継続事業	
(2) 事業の目的	家庭教育の充実を図る。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年三回、その時々課題となっているテーマで講演会を実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	① 「ネコの目で見守る子育て」からひも解く学力・体力日本一の秘密 ② 年中行事から学ぶ家庭の食生活 ③ 理想の子育てって何？育児ストレスの解決法
(5) 事業経費(決算額)	③ 保育業務委託料 13,892円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人青梅こども未来参加人数: 参加人数:講演会各回10人前後
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	子育ての現場の声を反映した講演会とするため。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:保護者への周知、講師等の情報提供、こどもの保育、当日受付・手伝い 行政側:周知、講師交渉、当日運営

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政側担当者との良好なコミュニケーションの基、各回ともスムーズに実施できた。 子ども・親を取り巻く状況(社会状況)に即した講師を紹介することができた。 講師との直接交渉・会場の先行予約と会場設営・ポスター・チラシ作成等は行政側、チラシ配付及び宣伝と声かけ・託児(保育)等は当方と、それぞれの利点を活かした役割分担が行われ、講演内容も充実したものとなり、参加者から好評を得ることができた。 			
<p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働で6年目の実施となり、担当課職員と協働団体代表・担当者による内容の企画・立案から当日の運営までを協議・決定し、講演会当日には多数の団体協力者が受付等の業務を協力してくれた。 例年以上に参加者が増え、市としてはソフト面(内容等)で、団体としてはハード面(会場等)でそれぞれ補い合うことができ、双方にメリットがあった。 			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> より適切な託児(保育)用の部屋を確保できるよう検討。 行政側担当者と協力し、より多くの参加者が集まるよう講師・開催日時・会場・託児(保育)体制等について模索・検討していく。 			
<p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き参加者増につながる開催日時・内容・周知等を再検討する。 			

協働事業評価シート(表)

事業名称	親子で楽しく文化体験！	担当課	社会教育課 生涯学習推進係
------	-------------	-----	---------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間:①11月10日(日)午前10時～正午 ②1月5日(日)午前10時～正午 ③3月20日(木)～3月23日(日) 場所:①東青梅市民センター ②河辺市民センター ③中央図書館多目的室</p>
<p>2継続事業</p>
<p>(2) 事業の目的 学習機会提供事業を市民が自主的に企画し、市と協力して開催</p>
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等) 団体・企業等が立案した企画を元に、市民のニーズに合わせた講座を実施する。</p>
<p>(4) 実施内容(実績値等) ①郷土料理教室「リンゴきんとんを作ろう」:参加者8組17名 ②墨文字アート教室:参加者19組41名 ③各教室の展示:参加者227名</p>
<p>(5) 事業経費(決算額) ①、②公益財団法人青梅佐藤財団との共催により、佐藤財団から委託料等 ③無償</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 4.事業委託</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 ①、②NPO法人青梅こども未来、③青梅こども未来、吹きガラス工房Rainbow Leaf 参加人数:各2～6人前後</p>
<p>(3) 協働の提案者 2団体等からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ 団体からの提案、既存の市民団体の活動を拡充</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1. 計画段階 その他の場合具体的に(</p>
<p>(6) 役割分担 市民側:企画、当日の指導 行政側:周知、申込み受付、事務、会場確保</p>

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨文字アートは年始め恒例の行事になり、リピーターが増え、毎年市民が楽しみにしている事業に広がっている。 ・親子協力して作品作りをするので親子のコミュニケーションが豊かになっている。 ・展示会では、自分の力作がホールに展示される事で、誇らしく自信を持てるようになっていく。 ・「昔を食べる」…実施会場及び講師の選択を事前に十分に協議して行えたことにより、会場の先行予約・講師との打ち合わせ等がスムーズに行えた。講師を地域の高齢者に依頼することにより、青梅の昔の文化の良いところを語り伝えながらおやつ作りをする多世代交流の場になった。 <p>行政側</p> <p>各教室においては事前準備を団体との連絡を密に行う事でそれほど問題が起きずに進めることができた。展示会の際は受付・準備・片づけを団体で行えた事でスムーズに開催する事が出来た。また、受付をする事で団体と一般市民とをつなげる場の提供にもなった。今後も連携を図っていきたい。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨文字アートの参加者取りまとめを少し早め、準備に余裕を持ちたい。 ・墨文字アートの会場作りで大量のブルーシートが必要となるので、行政・市民協力し合って調達しているが、行政の方での準備がもう少しあればと思う。 ・展示会は、主に青梅こども未来が平均して担当しているようだが、他の団体からも会場係を出していただき、一緒に会場を盛り上げていただきたい。 <p>行政側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室については、大きな問題もなかったが、事前準備・団体との連絡等をさらに密に行いたい。 ・展示会は、今年度は2団体に協力をいただいたが、次年度以降、さらに連携を図りたい。 			

協働事業評価シート(表)

事業名称	あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成26年3月15日(土) 場所:総合体育館第2スポーツホール
2継続事業	
(2) 事業の目的	子育て中の家族が楽しく過ごす場を提供し、幼児の知性・感性・社会性を育て人格形成を図るとともに 家族の絆を深めるきっかけ作り
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民のニーズに合わせた乳幼児向け体験型イベントを実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	参加者64人
(5) 事業経費(決算額)	70,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人 青梅こども未来 参加人数:20人
(3) 協働の提案者	2団体等からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:企画、当日の指導 行政側:周知、申込み受付、会場確保

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 社会教育課との協働事業だったので、広報掲載や開催場所との連絡、申し込み受け付け等がスムーズに出来て良かった。			
行政側 団体の企画、指導により、市民のニーズに合った乳幼児向けイベントを行う事が出来た。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 開催時期の設定では社会教育課の家庭教育講演会と同日重なったためスタッフの配置が難しかった。同時に参加者の中からは、日程が異なればどちらもゆったりと参加でき良かったのと言う意見を頂いた。日程調整の段階で他の事業と重複しない様、各課の情報交換の必要があると思った。			
行政側 他の部署に依頼するのが遅くなり、連携がうまく取れなかった。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	「この指とまれ！」朗読会	担当課	中央図書館管理課 業務係
------	--------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年6月30日 場所:中央図書館
2継続事業	
(2) 事業の目的	朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	朗読参加者等の確保
(4) 実施内容(実績値等)	朗読グループ「リーダーズ・あおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「リーダーズ・あおうめ」 参加人数:7人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	リーダーズ・あおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:企画立案、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 行政側:広報、会場提供、朗読会の開催支援

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
応募した市民等が参加し、朗読の発表の場が設けていただけた。			
行政側			
朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
今後においても、多くの朗読者に応募していただくよう努めていきたい。			
行政側			
この活動は、図書館の設置目的の推進に有用であるため、今後も市民と行政の役割をしっかりと築き、参加者にとっても良い事業であるようにしていきたい。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	中央図書館整架ボランティア	担当課	中央図書館管理課 業務係
------	---------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年4月1日～平成26年3月31日 場所:中央図書館
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	整架ボランティアの人員確保、納本、書架の整理
(4) 実施内容(実績値等)	整架ボランティアにより、中央図書館の納本および書架の整理を行っている。
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:図書館整架ボランティア登録者 参加人数:延べ 1,298人(登録者45人、年間活動日数258日)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアへの働く場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:図書の整架 行政側:ボランティアに対する場の提供

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	3	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
市民側			
図書館の仕事に携わることにより、行政への参加および図書館に対しての愛着を持っていただけた。			
行政側			
市民ボランティアの整架により、書架が常に整理された状態になり、市民の利便性の向上が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
図書館職員との交流の必要性(職員との交流が少ないため、担当職員が勤務の都合でいない場合に相談などがしにくい状況にある。)			
行政側			
できるだけ多くの職員がボランティアとの交流を持ち、整架作業が円滑に進むような環境を整える。			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おはなしボランティア	担当課	中央図書館管理課 業務係
------	------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成25年4月1日～平成26年3月31日 場所:中央図書館、今井図書館、市内小学校ほか
2継続事業	
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上
(4) 実施内容(実績値等)	おはなし会 72回、おはなし学習会 6回、絵本のべんきょう会 6回、おはなし勉強会 7回
(5) 事業経費(決算額)	36,000円(おはなし学習会講師報償金 6,000円×6回)

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」ほか、個人登録ボランティア 参加人数:延べ 31人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアへの働く場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側:おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会への参加、実演 行政側:おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4
(11) 協働による効果			
<p>市民側 私たちおはなしボランティアの目的は、子どもたちへおはなし・絵本を届けることです。図書館はそれをよく理解し、学校への出張おはなし会、図書館・センターでのおはなし会を企画実行してくれます。私たちの活動にも一般市民への呼びかけや場所の提供などの協力により助かっています。また、学習の場を設けていただき力をつけることもできました。</p>			
<p>行政側 市民のボランティア活動に対して意識が向上し、子ども読書活動の推進が図れた。</p>			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
<p>市民側 学校・幼稚園・保育園へ出張おはなし会をさらに広め、多くの子どもたちに届けたいと思っています。おはなし(昔話)・読書の文学性を教育の一環と考え、伝承・読書推進に励み活動しています。校長先生・園長先生方のお集まりのときは、ぜひこの点を伝えていただきたいと思います。</p>			
<p>行政側 この活動は、図書館事業(子ども読書活動推進事業)でもあるため、今後も市民と行政の役割をしっかりと築き、参加者にとって良い事業であるようにしていきたい。</p>			